



～ごみゼロ・循環型社会めざして～

活動推進フォーラム

年次報告書（2013年版）



平成25年5月

3R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

はじめに

東日本大震災から2年がたちましたが、がれき処理はかなり進展しているものの、東京電力福島第2原子力発電所による放射能汚染への対応と被害地域の復興が遅れているようです。一日も早い復興をお祈り申し上げる次第です。

さて、3R活動推進フォーラムも8年目を迎え、発足当初から見ると、事業活動も一段と充実して参りました。これも会員の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

3R活動推進フォーラムでは、前身の全国ごみ減量推進会議の時から、永年、廃棄物の減量化に取り組み、また当フォーラムとなってからは3R推進全国大会や3R促進ポスターコンクールなどを柱として、循環型社会の構築へ向けて廃棄物の発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle）の3Rの推進に取り組んでまいりました。

循環型社会構築にはこうした3Rの推進に加えて、さまざまな主体の連携・協働が重要とされており、このため当フォーラムでは近年、会員の増強とともに、会員相互の連携事業を強化して参りました。

会員の増強については、平成22年度から自治体会員の会費の無料化を行い、自治体会員の加入を推進して参りました。環境省からも加入を呼びかけていただき、現在、50自治体会員（40都道府県・2政令指定都市・3特別区・5一般市）と67民間団体会員、併せて117会員（平成25年5月末現在）となり、組織の強化を図ることができました。

また、自治体会員と民間会員による連携・協働事業は、平成24年度にはセミナーや研修会などを8団体と13回開催でき、より効果的・効率的な活動を展開することができました。

今後は、こうした成果を踏まえて、さらに広く効果的な3R推進活動を展開して参りますので、会員の皆様はじめ関係者の皆様の一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

本報告書は、平成24年度の3R活動推進フォーラムの活動についてとりまとめたものです。会員の皆様をはじめ3R活動に係る関係各位の今後の業務の参考になれば幸いです。

平成25年5月

3R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

専任理事 八木 美雄

目 次

	ページ
I 理事会・総会等	1
1 理事会.....	1
2 総会.....	2
3 企画・運営委員会.....	26
II 組織・規約	27
1 役員.....	27
2 事務局.....	27
3 会員.....	28
4 3R活動推進フォーラム規約.....	29
5 3R活動推進フォーラム企画・運営委員会設置要領.....	31
6 3R活動推進フォーラムについて.....	32
III 平成24年度事業概要	36
1 第7回3R推進全国大会.....	36
2 3R促進ポスターコンクール.....	42
3 循環型社会推進功労者等環境大臣表彰の推薦.....	60
4 3R推進地方大会後援等の協力.....	62
5 環境にやさしい買い物キャンペーン.....	65
6 連携・協働事業.....	70
7 広報・普及事業.....	77
8 会員サービスの充実.....	79
9 調査研究の実施.....	79
編集後記	80

I 理事会・総会等

平成 25 年度理事会及び総会は、第 7 回理事会・総会において理事会と総会を一体的に運営する合同開催が承認されたのを受けて、平成 25 年 4 月 26 日（金）に法曹会館（東京都千代田区霞が関 1・1・1）において合同で開催され、第 1 号議案「平成 24 年度事業報告（案）及び収支決算（案）について」と第 2 号議案「平成 25 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について」の 2 件の議案が承認された。

また、理事会・総会に先立つ 2 月 26 日（火）に（公財）廃棄物・3R 研究財団会議室にて企画・運営委員会を開催し、理事会・総会に提出する議案等について意見交換を行った。

1. 理事会・総会

(1) 開会

＜武内和彦会長の挨拶＞

・会員の皆様には日頃より、当フォーラムに対しご指導・ご鞭撻を賜り、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。3R 活動推進フォーラムも発足して 8 年目を迎え、事業も軌道に乗り始めている。

・当フォーラムの会員は、現在自治体会員が 39 都道府県と 2 政令指定都市 3 特別区、ほか 5 市、併せて 49 会員で 4 会員増え、また民間団体会員も 2 会員増えて 67 会員となり、合わせて 116 会員と 1 年前に比べ 6 会員増えた。環境省からも都道府県・政令指定都市に加入を呼び掛けていただき、改めて御礼申し上げます。

・当フォーラムの事業としては、毎年、3R 推進全国大会の開催や 3R 促進ポスターコンクールの実施などを中心に 3R 活動の普及啓発に努めており、今年度の第 8 回全国大会は関東地方環境事務所及び栃木県のご協力により、10 月 17 日（木）に宇都宮市内の栃木県総合文化会館で開催することとなった。皆様のご協力をいただき、成功させて参りたい。

・また、会員団体との連携・協働事業に注力しており、昨年度はセミナーや研修会を 13 回開催した。今年度も、引き続き、連携・協働事業を推進して参りたい。

・本日は、このような事業計画や予算等についてご審議いただきたい。なお、本日は、理事会と総会を同時に開催するが、これは 3R に関する事業の裾野が幅広いことから、理事と会員の皆様が、一堂に会して、幅広く、より効率的に意見交換できる場といたし、昨年の総会でご承認いただいたもので、ご協力くださるようよろしくお願い申し上げます。

・私は、環境行政、3R 行政に関心を持ってきているけれども、震災瓦礫、放射性物質に汚染されたものの適正な処理にかなり大きな力が注がれているなかで、循環型社会、3R を発展させていかなければならないと思っている。今廃棄物処理の問題で民間の方々と話をしているけれども、かなり従来とは違った取組が進められているように思う。こういうことも 3R 推進のための大きな契機と考えて行かなければいけないと思っていて、ぜひ会員の皆さま方の引き続きのご協力とご支援をお願いしたい。

(2) 来賓挨拶

＜梶原成元環境省廃棄物・リサイクル対策部長（河本晃利循環型社会推進室長代読）＞

・3R活動推進フォーラム第8回理事会・総会のご盛会を心よりお慶びを申し上げるとともに、ご参集の皆さまには日頃より廃棄物・3R行政の推進に多大なご理解とご尽力をいただいていることに厚く御礼を申し上げます。

・3R活動推進フォーラムでは平成18年1月の設立以来、3R推進全国大会の開催をはじめとする数々の活動を通じ循環型社会づくりにご協力をいただいております、大変感謝をしています。

・廃棄物・リサイクル行政は社会情勢や経済社会の動向を踏まえて方向性を定めていかなければならない。2年前に発生した東日本大震災に関しては災害廃棄物や放射性物質に汚染された廃棄物の迅速な処理が引き続き求められている他、今後大災害が発生した場合の備えに対する検討も迫られている。

・国際的な資源の制約の顕在化をふまえた金属資源の確保や地球温暖化をはじめとする地球環境問題に対しても廃棄物処理やリサイクル推進の立場から適切な対応が必要となっており、循環型社会を着実に構築していくためにはより総合的科学的な視点から政策を推進していくことが重要であると考えている。

・このため現在パブリックコメントを受け付けている第3次循環型社会形成推進基本計画では、特にリデュース、リユースの取り組み強化、有用金属の回収、安全安心の取り組み強化、3R国際協力の推進、循環産業の海外展開支援などを重点課題としている。

・循環型社会の実現に向け国の取組と地方公共団体や産業界、NPO、NGO、研究機関のそれぞれの取り組みが連携することは必要不可欠であり、3Rに関する関係各団体の緊密な協力は特に重要となってくる。環境省としても今後フォーラムの活動に大いに期待をしている。

(3)来賓紹介

環境省廃棄物・リサイクル対策部 循環型社会推進室長 河本晃利

〃 企画係長 皆川裕哉

〃 岡本亮佑

経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課 課長補佐 小林雅明

〃 排出抑制促進係長 尾添将

農林水産省バイオマス循環資源課 課長補佐 牧野 将士

国土交通省総合政策局公共事業企画調整課環境・リサイクル企画室 室長 福島眞司

(4)出席者

◇理事・監事

17名中 代理を含めて13名（欠席4名は委任状）

会員 116会員中 36会員（欠席66会員から委任状）

(5)議長を選出

武内和彦会長を議長に選出した。

(4)議事

第1号議案と第2号議案等について審議され、満場一致で承認された。なお、第2号議案の平成24年度収支決算については、監事を代表してスチール缶リサイクル協会の酒巻弘三専務理事から



監査報告が行われた。

- ・第1号議案 平成24年度事業報告（案）及び収支決算（案）について
- ・第2号議案 平成25年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

議案資料

〈第1号議案〉 平成24年度 3R活動推進フォーラム事業報告(案)

I 組織運営

1. 理事会・総会

理事会・総会を平成24年4月24日（火）に法曹会館（東京都千代田区霞が関1-1-1）で開催し、①平成23年度事業報告及び収支決算②平成24年度事業計画及び収支予算について議決した。

2. 企画・運営委員会

第7回理事会・総会の議決を受けて、今年度から2年の任期で新たに委員を選任するとともに、新たな委員による企画・運営委員会を平成25年2月27日（水）に（公財）廃棄物・3R研究財団会議室で開催し、平成24年度事業報告（案）、平成25年度事業計画（案）等についてご意見をいただいた。

II 会員の強化・拡充

1. 取組

- ①環境省から6月29日（金）開催の全国廃棄物・リサイクル行政主管課長会議で3R活動推進フォーラムの紹介及び入会について案内していただいた。
- ②11月に未入会の県と政令指定都市に入会案内を送付した。
- ③企画・運営委員会で東京都から特別区への入会の働きかけのお話をいただき、3月に入会案内書を送付した。
- ④未入会民間団体には、機会あるごとに案内した。

2. 入会状況

自治体の新たな入会は、県では新たに宮城県と広島県、政令指定都市では大阪市と神戸市、特別区では豊島区、目黒区、荒川区、市では岩見沢市が入会した。

なお、大阪府リサイクル社会推進会議が解散に伴い退会となった。この結果、自治体会員は都道府県39会員、政令指定都市2会員、特別区3会員、市5会員、合計49会員となった。

一方、民間会員は、NPO法人環境技術支援ネットワークと一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センターが入会し、67会員となった。

この結果、合計会員数は116会員（4月22日現在）となった。

III 3R推進全国大会関連事業

1. 第7回3R推進全国大会の開催

「第7回3R推進全国大会（以下「3R全国大会」という。）」を平成24年10月15日（月）に

東京都内で開催した。今大会は開催地に予定していた自治体が震災廃棄物への対応で開催が困難となったため、環境省と3R活動推進フォーラムによる開催となった。なお、運営は（公財）廃棄物・3R研究財団と（株）ダイナックス都市環境研究所が行った。

（1）大会式典

□開催日：平成24年10月15日（月）

□会場：全国都市会館2階大ホール（東京都千代田区平河町2-4-2）

□入場者数：約230名

□プログラム

【第1部】記念式典

- ・主催者挨拶 園田康博環境副大臣 武内和彦3R活動推進フォーラム会長
- ・表彰式 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰（20企業、10団体、4個人）
3R促進ポスターコンクール表彰（最優秀賞 小学生3名、中学生1名）

【第2部】記念シンポジウム「循環型社会構築へ向け3Rの推進を考える」

- ・基調講演「循環型社会構築に向けて」
鳥取環境大学 サステイナビリティ研究所長 田中勝氏
- ・話題提供
環境省 廃棄物・リサイクル対策部 循環型社会推進室長 永島徹也氏
横浜市 資源循環局総務部 資源政策課長 河井一広氏
3R推進団体連絡会幹事長・スチール缶リサイクル協会専務理事 酒巻弘三氏
DOWAエコシステム リサイクル事業部 事業部長 仲雅之氏
- ・パネルディスカッション
コーディネーター 鳥取環境大学サステイナビリティ研究所長 田中勝氏
パネラー 永島徹也氏、河井一広氏、酒巻弘三氏、仲雅之氏

（2）施設見学

大会当日の午前、2つのコースで施設見学が行われ、参加者は終了後大会に参加した。

□日時：平成24年10月15日（月）9:00～12:00

□見学施設

- ・Aコース 株式会社リーテム東京工場（東京都大田区城南島）
小型家電等廃棄物処理・再資源化の最新鋭工場。
- ・Bコース 東京ペットボトルリサイクル（株）（東京都江東区青海）
都内唯一のペットボトルリサイクル専門工場。

□参加者数 Aコース40名、Bコース30名 計70名

（3）開催報告書の配布

第7回3R推進全国大会の内容は開催報告書（A4版、47ページ）としてまとめられ、各都道府県等に配布された。

2. 平成24年度3R促進ポスターコンクールの実施

毎年、環境省と3R活動推進フォーラムによって行われている3R促進ポスターコンクールは、

作品における年齢差による格差をできるだけ小さくするため、小学生の部を従来の2区分から3区分に変更して、以下のように実施した。

- 募集期間 平成24年5月1日(火)～9月13日(木)
- 応募数 小学校低学年の部(1～2年生) 917点
小学生中学年の部(3～4年生) 2,480点
小学校高学年の部(5～6年生) 3,130点
中学校の部 3,685点
合 計 10,212点
- 選考 ・第一次審査委員会 平成24年9月18日(火)(公財)廃棄物・3R研究財団
・第二次審査委員会 平成24年9月27日(木)法曹会館3階富士の間
- 入賞 各部門で最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点、4部門計56点を選定
- 表彰 平成24年10月15日(月)開催の第7回3R推進全国大会式典で各部門の最優秀賞4名を表彰した。その他の入賞者には賞状が送付された。

3. 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦

平成18年度より行っている循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦者として、会員における循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体について、フォーラムから循環型社会形成推進功労表彰の対象者として環境省に対して推薦を行った。

平成24年度の当フォーラムからの推薦数は、企業13件、個人1件、合計14件で、このうち企業7件、個人1件が受賞となった。

表彰式は、第7回3R推進全国大会式典の席で行われ、全体で20企業、10団体、4個人が受賞した。

【3R活動推進フォーラム推薦の受賞者】

<企業>

- ①株式会社日本アクシーズ(新潟県)
- ②株式会社アルフォ(城南島飼料化センター)(東京都)
- ③東京ボードグループ「東京ボード工業株式会社」(東京都)
- ④株式会社熊谷組(東京都)
- ⑤株式会社ガイアート T・K福井合材工場(福井県)
- ⑥サントリーホールディングス株式会社(東京都)、協栄産業株式会社(栃木県)
- ⑦森永乳業株式会社神戸工場(兵庫県)

<個人> 川添 克子(福岡県)

IV 連携・協働事業

1. 循環型社会形成推進セミナーの開催

会員団体等と連携・協働して循環型社会形成に資するセミナーなどを3自治体、5団体と計13回開催した。

このうち、環境省の3R推進企画運營業務として実施されたのは3自治体、3団体で計6回。

平成 24 年度連携セミナー実施状況

- ①平成 24 年 7 月 19 日 (金)
主催：NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット・3R 活動推進フォーラム
会場：千代田区内幸町ホール
- ②平成 24 年 8 月 2 日 (木)
主催：スチール缶リサイクル協会
会場：名古屋駅 ABC ビル 第 4 会議室 (名古屋市内)
- ③平成 24 年 8 月 7 日 (火)
主催：山形県・3R 活動推進フォーラム
会場：山形県高度技術研究開発センター多目的ホール (山形市内)
- ④平成 24 年 9 月 11 日 (火)
主催：(公財) 廃棄物・3R 研究財団・3R 活動推進フォーラム
会場：江戸東京博物館 会議室
- ⑤平成 24 年 11 月 19 日 (月)
主催：環境省・山形県・3R 活動推進フォーラム
会場：山形県庁 1001 会議室
- ⑥平成 24 年 12 月 3 日 (月)
主催：環境省・埼玉県・3R 活動推進フォーラム
会場：さいたま共済会館 601 会議室(さいたま市内)
- ⑦平成 24 年 12 月 13 日 (木)
主催：公益財団法人廃棄物・3R 研究財団
会場：千代田区立内幸町ホール (都内)
- ⑧平成 24 年 12 月 18 日 (火)
主催：環境省・NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット・3R 活動推進フォーラム
会場：名古屋栄ガスビル 410 会議室(名古屋市内)
- ⑨平成 25 年 1 月 28 日 (月)
主催：環境省・公益社団法人全国都市清掃会議関東地区協議会・3R 活動推進フォーラム
会場：武蔵野ブリランテ「サファイア」(さいたま市内)
- ⑩平成 25 年 2 月 5 日 (火)
主催：環境省・京都府・3R 活動推進フォーラム
会場：キャンパスプラザ京都第 4 講義室(京都市内)
- ⑪平成 25 年 2 月 18 日 (月)
主催：スチール缶リサイクル協会・3R 活動推進フォーラム
会場：堺市産業振興センター セミナー室 2 (堺市内)
- ⑫平成 25 年 2 月 19 日 (火) 予定
主催：環境省・3R 推進団体連絡会・3R 活動推進フォーラム
会場：新梅田研修センター(大阪市内)
- ⑬平成 25 年 2 月 25 日 (月)
主催：スチール缶リサイクル協会・3R 活動推進フォーラム
会場：TKP ガーデンシティ熊本 カンファレンスルーム 1 (熊本市内)

(1) 循環・3R シンポジウム

- 共催先 NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット
- 後援 3R 推進団体連絡会、公益財団法人廃棄物・3R 研究財団
- テーマ 信頼と連携で共創する地域循環圏
- 開催日 平成 24 年 7 月 19 日 (金) 13:00~16:30
- 会場 千代田区内幸町ホール
- 内容
 - ◇開会挨拶 NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 崎田裕子氏
 - ◇第一部 基調講演「災害廃棄物広域処理と住民対話」
財団法人原子力研究バックエンド推進センター 専務理事 森久起氏

◇第二部 話題提供 「どう創る、地域循環圏の信頼の環」

- ・「最近のリサイクル対策の動向について」

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル対策室 室長 森下哲氏

- ・「小型家電リサイクルとループづくり」

ハリタ金属株式会社代表取締役 張田真氏

- ・「食品リサイクルと地域連携づくり」

バイオエナジー株式会社代表取締役 岸本悦也氏

◇第三部 総合討論「3R効果を本格的に発揮するには」

- ・コーディネーター 崎田裕子氏 (NPO 持続可能な社会をつくる元気社理事長)

- ・パネラー 森下哲氏 (環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル対策室長)
森久起氏 (財団法人原子力研究バックエンド推進センター専務理事)
張田真氏 (ハリタ金属株式会社代表取締役)
岸本悦也氏 (バイオエナジー株式会社代表取締役)

□参加者 137名

(2) 2012 山形県ビジネスセミナー

□共催先 山形県

□後援 公益財団法人廃棄物・3R研究財団

□テーマ ゼロエミッション推進セミナー

□開催日 平成24年8月7日(火) 13:00~16:20

□会場 山形県高度技術研究開発センター多目的ホール
(山形県山形市松栄二丁目2番1号)

□内容

◇開会挨拶 山形県環境エネルギー部循環型社会推進課長

◇基調講演「ゼロエミと循環型社会構築への布石 東北の復興課題と展望」

エコシス・コンサルティング株式会社 代表取締役 平田耕一氏

◇事例発表

- ・「パナソニックの環境への取組み」

パナソニック株式会社 環境本部環境渉外室 参事 小河晴樹氏

- ・「マテリアルリサイクル等リサイクルの最新事情」

株式会社佐野環境都市計画事務所 代表取締役 佐野敦彦氏

□参加者 95名

(3) 年次報告会

□共催先 (公財) 廃棄物・3R研究財団

□開催日 平成24年9月11日(火) 13:30~16:35

□会場 江戸東京博物館 会議室(東京都墨田区横網1-4-1)

□内容

◇開会 (公財) 廃棄物・3R研究財団 理事長 田中勝氏

◇講演

- ①「廃棄物行政・リサイクル行政の動向」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 課長 山本昌宏氏

②「廃棄物を資源に～ごみゼロ社会への取り組み～」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 理事長 田中 勝氏

③「国立環境研究所の東日本大震災への取り組み」

～資源循環・廃棄物研究センターの福島における取り組みを中心に～

(独) 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 研究調整主幹 高田光康

◇ 調査研究概要報告

①「最終処分場及び粗大ごみ処理施設、リサイクル・資源化施設等の長寿命化」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 専務理事 八木 美雄

②「廃棄物系バイオマスの利用推進」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 主任研究員 河村 栄作

□参加者 113名

(4) 山形県 循環・3R推進セミナー

□共催先 環境省・山形県

□テーマ 3R・循環型社会と県民・事業者・行政の役割

□開催日 平成24年11月19日(月) 13:00～16:20

□会場 山形県庁1001会議

□内容

◇開会挨拶 山形県環境エネルギー部循環型社会推進課長 中川芳則氏

◇基調講演「使用済小型電子機器等リサイクル法の概要」

環境省東北地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課 廃棄物対策調査官 縄野正衡氏

◇事例発表

・「酒田市こでんアクション」～小型家電社会実験実施に係る酒田市の取組状況～

酒田市民部環境衛生課 管理主査 村井真氏

・「富山県における小型電子機器等リサイクルとループづくり」

ハリタ金属株式会社代表取締役 張田真氏

□参加者 約65名

(5) 埼玉県循環3R セミナー

□共催先 環境省・埼玉県

□テーマ 使用済み小型電子機器等リサイクル制度の導入に向けて

□開催日 平成24年12月3日(月) 13:30～16:05

□会場 さいたま共済会館601会議室(さいたま市浦和区岸町7-5-14)

□内容

◇開会挨拶 埼玉県環境部資源循環推進課長 森美秀氏

◇講演

・「使用済小型電子機器リサイクル対策について」

NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 崎田裕子氏

・「小型家電リサイクルとループづくり」

株式会社リーテム P I 事業推進室 室長 山崎隆久氏

- ・「使用済家電からのレアメタル回収」

豊田市環境部ごみ減量推進課 副主幹 近藤理史氏

□参加者 約 100 名

(6) 廃棄物・3Rのための電子契約セミナー

□共催先 公益財団法人廃棄物・3R研究財団

□テーマ 電子契約の有効性や社会的意義を考える

□開催日 平成24年12月13日(木) 13:00~16:05

□会場 千代田区立内幸町ホール(東京都千代田区内幸町1-5-1)

□内容

◇開会挨拶「廃棄物・3Rに係る電子契約の情報資料集」について

公益財団法人廃棄物・3R研究財団 専務理事 八木美雄氏

◇電子契約について

- ・「廃棄物・3Rのための電子契約のあり方」

株式会社佐野都市環境計画事務所 代表取締役 佐野敦彦氏

- ・「電子契約に係る事業の進め方」

株式会社佐野都市環境計画事務所 チーフプロデューサー 木川仁氏

- ・「電子契約の考え方」

株式会社セコムトラストシステムズ 営業開発本部 大友元裕氏

◇電子契約のトップランナーの事例紹介

- ・「新日鐵住金の取り組み」

新日鐵住金株式会社 君津製鐵所 安全環境防災部 渡辺勇吉氏

- ・「日本マクドナルドの取り組み」

日本マクドナルド株式会社 ナショナルオペレーション本部 深井勝彦氏

□参加者 約 150 名

(7) 循環・3Rシンポジウム

□共催先 環境省・NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット

□テーマ 信頼と連携で共創する地域循環圏

□開催日 平成24年12月18日(火) 13:00~16:35

□会場 名古屋栄ガスビル410会議室

□内容

◇第1部 基調講演

「循環型社会形成に向けた最近の状況~小型家電リサイクル法を中心として~」

環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長 永島徹也氏

◇第2部 話題提供

- ・「小型家電リサイクルとループづくり」

中部リサイクル運動市民の会 浅井直樹氏

- ・「食品リサイクルと地域連携づくり」

株式会社ユニー業務本部 環境社会貢献部長 百瀬則子氏

- ・「ごみの減量に向けて」

熱海市市民福祉部市民生活課 環境企画室長 山田賢二氏

◇第3部 シンポジウム・参加者交流

- ・コーディネーター 崎田裕子 (NPO 持続可能な社会を作る元気ネット理事長)
- ・パネリスト 永島徹也 (環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長)
浅井直樹 (中部リサイクル運動市民の会)
百瀬則子 (株式会社ユニー業務本部 環境社会貢献部長)

□参加者 73名

(8) 一般廃棄物実務研修セミナー

□共催先 環境省・全国都市清掃会議関東地区協議会

□テーマ 今後の一般廃棄物の動向を考える

□開催日 平成25年1月28日(月) 13:30~16:35

□会場 ホテルブリランテ武蔵野 2F「サファイア」(さいたま市中央区新都心 2-2)

□内容

◇開会挨拶 全国都市清掃会議関東地区協議会幹事長・さいたま市環境局長 矢作浩良氏

◇講演

- ・「使用済小型家電リサイクル法について」
環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長補佐 眼目佳秀氏
- ・「今後のリサイクルを考える」
株式会社佐野環境都市計画事務所 代表取締役所長 佐野敦彦氏
- ・「生ごみリサイクルと地域連携づくり」
バイオエナジー株式会社代表取締役 岸本悦也氏
- ・「最終処分場の維持管理について」
独立行政法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター
廃棄物適正処理処分研究室長 山田正人氏

□参加者数 102名

(9) 京都府3R推進セミナー

□共催先 環境省・京都府

□テーマ 循環型社会に向けて、廃棄物の少ない生活を考える

□開催日 平成25年2月5日(火) 13:30~16:35

□会場 キャンパスプラザ京都第4講義室

□内容

◇開会挨拶 京都府

◇基調講演「市民とのパートナーシップづくり」

NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 崎田裕子氏

◇事例発表

- ・「分別収集とゼロ・ウェイスト宣言」
NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー 藤井園苗氏
- ・「さいたま市のごみ減量化・3Rの施策」
さいたま市環境局資源循環推進部資源循環政策課 島村和久氏

- ・「事業者による容器包装の3R推進等」

スチール缶リサイクル協会 専務理事 酒巻弘三氏

- ・「アジア3R推進市民ネットワーク」

アジア3R推進市民ネットワーク 事務局長 鬼沢良子氏

◇パネルディスカッション

- ・コーディネーター 崎田裕子氏 (NPO 持続可能な社会を作る元気ネット理事長)

- ・パネリスト

藤井園苗氏 (NPO ゼロ・ウェイストアカデミー)

島村和久氏 (さいたま市資源循環推進部資源循環政策課)

酒巻弘三氏 (スチール缶リサイクル協会 専務理事)

鬼沢良子氏 (アジア3R推進市民ネットワーク 事務局長)

- ・オブザーバー

山田一成 (京都府環境・エネルギー局循環型社会推進課長)

□参加者数 53名

(10) 3R・循環推進セミナー

□共催先 環境省・3R推進団体連絡会

□テーマ 3R、資源の循環利用、ごみ減量化を考える

□開催日 平成25年2月19日(火) 13:00~16:50

□会場 新梅田研修センターLホール (大阪市福島区福島 6-22-20)

□内容

◇開会挨拶 3R推進団体連絡会幹事長 酒巻弘三氏

◇第1部 基調講演「3R活動推進へのソフト事業の展開」

京都大学名誉教授・環境漫画家 高月紘氏

◇第2部 話題提供

- ・環境省大臣官房廃棄物リサイクル対策部リサイクル推進室係長 水信崇氏

- ・京都市環境政策局循環型社社会推進部企画課担当課長 堀寛明氏

- ・熱海市市民福祉部市民生活課環境企画室長 山田賢二氏

- ・3R推進団体連絡会幹事 (PETボトルリサイクル推進協議会専務理事) 近藤方人氏

- ・NPO 法人ごみゼロネット大阪 北井弘氏

◇第3部 シンポジウム・参加者交流

- ・コーディネーター 高月紘氏 (京都大学名誉教授 環境漫画家)

- ・パネリスト

水信崇氏 (環境省廃棄物リサイクル対策部リサイクル推進室係長)

堀寛明氏 (京都市循環型社社会推進部企画課担当課長)

山田賢二氏 (熱海市市民福祉部市民生活課環境企画室長)

近藤方人氏 (3R推進団体連絡会幹事)

北井弘氏 (NPO ごみゼロネット大阪)

□参加者数 65名

(11) 多様な回収システム検討セミナー

□共催先 スチール缶リサイクル協会

□後援 公益財団法人廃棄物・3R研究財団

□テーマ これからのリサイクルはどのような方向へ

□開催日・会場

第1回 平成24年8月2日(木) 13:00~17:00

名古屋駅ABCビル 第4会議室(名古屋市中村区椿町16-23)

第2回 平成25年2月18日(月) 13:00~17:00

堺市産業振興センター セミナー室2(堺市北区長曾根町183-5)

第3回 平成25年2月25日(月) 13:00~17:00

TKP ガーデンシティ熊本 カンファレンスルーム1(熊本市中央区下通1-7-18 ホテルサンルート熊本)

□内 容

◇第1部

- ・主催者挨拶 スチール缶リサイクル協会 専務理事 酒巻弘三氏
- ・「循環型社会とリサイクルの最新動向」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団 藤波博氏
- ・解説 テキスト「集団回収マニュアル」～協働型集団回収とは?その可能性～
スチール缶リサイクル協会 細田佳嗣氏
- ・中間報告 拠点・店頭回収の現状
株式会社ダイナックス都市環境研究所 南明紀子

◇第2部

- ・自治体からの現状報告
 - 第1回 稲沢市経済環境部資源対策課
西尾市環境部ごみ減量課
可児市市民部環境課
 - 第2回 堺市環境局環境事業部資源循環推進課
守口市クリーンセンター減量総務課
 - 第3回 熊本市環境局ごみ減量推進課
鹿児島市環境局清掃部リサイクル推進室
- ・質疑応答・意見交換
(コーディネーター 株式会社ダイナックス都市環境研究所 代表取締役 山本耕平氏)

□参加者数 毎回 約20名

2. 3R推進地方大会への協力

地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に対して後援等の協力を行うとともに、積極的にPRした。

(1) 3R推進北海道大会2012

平成24年10月6日(土) 札幌市内

(2) 3R推進宮城大会

平成24年10月19日(金)~21日(日) 仙台市内
エコプロダクツ東北2012 同時開催

(3) 第5回3R推進関東大会

①平成24年11月30日(日) 富士市内

- 第1回富士市環境エネルギー展会場内
- ②平成24年12月1日(土) 富士市内
第6回富士市環境フェア会場内
- (4) 平成24年度3R推進中部地方大会
平成24年10月20日(土)及び10月21日(日) 富山県高岡市内
とやま環境フェア会場内
- (5) 平成24年度3R推進近畿ブロック大会
平成24年10月6日(土) 神戸市内
日本女子サッカーリーグ・プレナスなでしこリーグ2012試合会場内
- (6) 3R推進中国地方大会
平成24年11月22日(木)～23日(金) 広島市内
「エコ・イノベーションメッセ2012 in ひろしま」同時開催
- (7) 3R推進中国四国地方大会
平成24年11月4日(日) 高松市内
「うどん県。まるごと循環サミット」同時開催

3. その他の後援・協賛等

- (1) 後援
 - ①第6回小・中学校における環境教育推進支援事業
主催：スチール缶リサイクル協会
募集期間：平成24年5月1日(火)～11月30日(金)
支援対象：45校
 - ②2012年容器包装3R連携市民セミナーin札幌
開催日時：平成24年9月3日(月)13:00～16:30
主催：3R推進団体連絡会
会場：札幌エルプラザ 男女共同参画センター(札幌市内)
 - ③第7回容器包装3R推進フォーラムin仙台
主催：3R推進団体連絡会
開催期間：平成24年11月1日(木)～2日(金)
会場：仙台市青年文化センター(仙台市内)
 - ④平成24年度建設副産物リサイクル広報ポスター
主催：建設副産物リサイクル広報推進会議
掲出期間：平成24年10月1日～平成25年9月30日
 - ⑤島嶼地域の3R国際シンポジウム
主催：沖縄リサイクル運動市民の会、離島のごみ問題研究会
開催期間：平成24年11月28日(水)～29日(木)
会場：テンプス館テンプスホール(那覇市内)
- (2) 協賛
 - ①第11回「産業廃棄物と環境を考える全国大会」

主催：(公社) 全国産業廃棄物連合会・(公財) 日本産業廃棄物処理振興センター・
(公財) 産業廃棄物処理事業振興財団

開催日：平成 24 年 10 月 26 日 (金)

会場：ホテルニューオータニ (東京都千代田区内)

②平成 24 年度「環境衛生週間」

主唱：環境省、都道府県及び市町村

期間：平成 24 年 9 月 24 日～10 月 1 日 (9 月 24 日清掃の日、10 月 1 日浄化槽の日)

(3) 協力

第 5 回 3 R 検定

3 R 検定実行委員会主催 平成 25 年 1 月 14 日 (月)

試験会場：東北・関東・中部・北陸・京都・大阪・兵庫・岡山・広島・福岡・佐賀

(4) 講師等派遣

3 R 検定講習会講師 (3 R 検定実行委員会主催)

平成 24 年 11 月 24 日 (土) (公財) 廃棄物・3R 研究財団会議室

平成 24 年 12 月 15 日 (土) (公財) 廃棄物・3R 研究財団会議室

(5) 参加

散乱防止美化キャンペーン (スチール缶リサイクル協会主催)

平成 24 年 5 月 27 日 (日) 石川県金沢市 (県民海浜公園・金沢駅前)

V 広報普及活動

1. 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施

10 月の 3 R 推進月間に環境省、経済産業省とともに「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施を都道府県、流通事業者に呼びかけるとともに、同キャンペーンに併せて当フォーラムとして印刷して使用できるキャンペーン用ポスターデザインデータを作成し、利用希望者に提供した。

都道府県、流通事業者等の取り組みは「平成 24 年度環境にやさしい買い物キャンペーン実施報告書」としてまとめられ、都道府県、参加流通事業者等に送付された。

参加自治体数 46 都道府県

参加流通事業者等 64 社 50,549 店舗

2. 展示会への出展

(1) エコライフ・フェア 2012

開催日：平成 24 年 6 月 2 日 (土) ～3 日 (日)

会場：都立代々木公園

来場者：約 66,000 人

(2) とやま環境フェア 2012

開催日：平成 24 年 10 月 20 日 (土) ～10 月 21 日 (日)

会場：高岡テクノドーム (富山県産業創造センター、高岡市内)

来場者：12,000 人

3. 出版物等の発行

(1) 2012 年次報告書作成

3R活動推進フォーラムの平成 23 年度の事業を中心に報告書を作成、ホームページに掲載し、会員、都道府県等関係先に案内した。

(2) 「財団・3Rだより」の発行

「財団・3Rだより」を 2012 年 7 月号、会員特集号（2012 年 11 月）、2013 年 1 月号の 3 回発行し、会員に送付した。

(3) 第 7 回 3R 推進全国大会開催報告書の作成

第 7 回 3R 推進全国大会開催報告書を作成し、都道府県・政令指定都市、会員等に送付した。

(4) 平成 24 年度「環境にやさしい買い物キャンペーン」実施報告書の作成

環境省、経済産業省と環境にやさしい買い物キャンペーンを実施、都道府県及び流通事業者の実施報告書（A4 版、128 ページ）を作成、全国都道府、流通事業者等に送付した。

(5) 3R 活動先進事例集 2012 の作成

平成 24 年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者の取組をまとめた 3R 先進活動事例集（A4 版、95 ページ）を作成し、都道府県、会員等に送付した。

(6) 2013 年カレンダー作成

平成 24 年度 3R 促進ポスターコンクール最優秀作品をデザインした 2013 年カレンダー（A1 判）を作成し、都道府県等に送付した。

4. インターネットを活用した情報発信

(1) ホームページによる情報発信

ホームページに各種お知らせ、開催イベントのもよう及び関連資料、発行済みの機関誌・メルマガ、「平成 24 年度環境にやさしい買い物キャンペーン」「3R 活動先進事例集 2012」等を掲載した。

(2) メルマガ「3R・廃棄物ニュース」の配信

関係省庁、都道府県、政令指定都市、会員団体等の情報を月 3 回配信した。

(3) 3R 活動推進フォーラム事務局通信の配信

会員向けに事務局の業務報告などを事務局通信として 9 回配信した。

5. 新聞・雑誌等における記事・広告掲載等

(1) 記事

①環境新聞

平成 24 年 10 月 10 日（水）第 7 回 3R 推進全国大会特集記事 1 ページ

②ウェスト・マネジメント

平成 24 年 10 月 15 日（月）第 7 回 3R 推進全国大会特集記事 1 ページ

③月刊廃棄物

平成 25 年 1 月号 2012 年度 3R 促進ポスターコンクール表彰記事 2 頁掲載

(2) 広告

①環境新聞

平成 24 年 10 月 10 日（水）3 R 推進全国大会企画 5 段 1/2

平成 25 年 1 月 1 日（火）新年名刺広告

②ウェスト・マネジメント

平成 24 年 10 月 15 日（月）第 7 回 3 R 推進全国大会特集連名広告

平成 24 年 10 月 25 日第 7 回 3 R 推進全国大会開催ニュース記事

③月刊廃棄物

平成 25 年 1 月号 京都府 3 R 推進セミナー1/4 頁広告

6. ガイドラインに沿ったRマーク表示の普及推進

3 R 活動推進フォーラムでは、前身のごみ減量化推進国民会議が平成 7 年 6 月設定した再生紙使用マーク（R マーク）について、平成 20 年 1 月に環境省が策定した環境表示ガイドラインに則った適正な R マークの表示方法等の周知を図った。

(1) ホームページでの普及啓発

R マークのロゴをダウンロードできるようにするとともに、使用にあたっての留意事項等を掲載

(2) 展示会でのパネル展示

エコ・ライフフェア 2012 及びとやま環境フェア（いずれも前掲）で R マークのパネルを展示した。

(3) 問い合わせに対応

R マークについて、掲載方法や掲載物等に関する電話などでの問い合わせや、教材などへの掲載方法についての問い合わせなどに対応した。

VI 会員サービスの充実

1. 会員との連携・協働事業の実施（前掲）

3 自治体会員、5 民間団体会員と合計 13 回のセミナー等を開催した。このうち、環境省の 3 R 推進企画運営業務として 3 自治体、3 民間団体と 6 回開催した。

2. 情報の発信・共有化

(1) 「財団・3 R だより」の発行（前掲）

「財団・3 R だより」会員特集号を 11 月に発行し、自治体会員の取り組み、民間会員の紹介広告（無料）を掲載（希望会員のみ）したほか、3 回発行の「財団・3 R だより」を会員に無料配布した。

(2) 会員のイベント情報等をメルマガで配信（前掲）

月 3 回配信しているメルマガ「3 R・廃棄物ニュース」（前掲）に会員のイベント情報等を掲載した。

(3) 3 R 活動推進フォーラム事務局通信の配信（前掲）

事業の進捗状況や事務局の状況を会員に報告する事務局通信を 9 回メール配信した。

(4) ホームページの会員ページによる情報提供

- ①年次報告書 2012 版等をホームページ上に掲載した。
- ②ホームページの会員ページにおいて行政資料等会員向け情報を掲載した。

(5) その他出版物の配布

第 7 回 3 R 推進全国大会開催報告書、3 R 活動先進事例集 2012 等の出版物を会員に配布した。

3. 会員割引料金による資料提供

- (1) 平成 24 年 9 月 11 日 (火) の (公財) 廃棄物・3R 研究財団との共催による年次報告会において、会員の資料代 (一般参加者 2,000 円) を無料とした。
- (2) (公財) 廃棄物・3R 研究財団が発行する「ブック財団」を財団会員同様の会員サービス価格で提供した。

4. 3Rグッズ等の配布

(1) 3 R 推進月間用ポスターデータの配布

平成 24 年度 3 R 促進ポスターコンクール入賞作品をデザインした 3 R 推進月間用ポスター 2 種のデータを作成、10 月の 3 R 推進月間を中心に希望者に無料で配布した。

(2) 2013 年カレンダーデータの配布

平成 24 年度 3 R 促進ポスターコンクール最優秀作品をデザインした 2013 年のカレンダー (A1 判) のデータを希望者に無料配布した。

Ⅶ 調査研究の実施

3R・廃棄物の電子契約のあり方研究への協力

廃棄物処理・リサイクル等の委託契約を電子化することの有効性や課題について検証する公益財団法人廃棄物・3R 研究財団の「3R・廃棄物の電子契約のあり方研究」に協力した。

平成24年度 収支決算書(案)

自 平成24年 4月 1日

至 平成25年 3月 31日

1.収入の部

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	
1 会 費 収 入	4,800,000	4,500,000	△ 300,000	
2 事 業 収 入	500,000	668,250	168,250	
3 利 息 収 入	700	653	△ 47	
当期収入合計	5,300,700	5,168,903	△ 131,797	
前期繰越収支差額	1,269,857	1,269,857	0	
収入合計	6,570,557	6,438,760	△ 131,797	

2.支出の部

科 目	予算額	決算額	差異	
1 普 及 啓 発 費	2,200,000	1,951,874	△ 248,126	
(1) 企画等運営費	400,000	410,220	10,220	
(2) 3 R 推進大会費	150,000	263,455	113,455	全国大会及び地方大会等
(3) セミナー等開催費	1,000,000	664,647	△ 335,353	
(4) 広報活動費	650,000	613,552	△ 36,448	美化キャンペーン、エコライフフェア等
2 管 理 費	2,972,200	3,462,330	490,130	
(1) 業務委託費	2,520,000	3,015,000	495,000	
(2) その他管理費	452,200	447,330	△ 4,870	HP保守料、宅急便代等
当期支出合計	5,172,200	5,414,204	242,004	
当期収支差額	128,500	△ 245,301	△ 373,801	
次期繰越収支差額	1,398,357	1,024,556	△ 373,801	

平成24年度 貸借対照表(案)

(平成25年 3月31日現在)

(単位:円)

資 産 の 部		負債及び正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【負 債】	
現 金	148,570	未 払 金	25,151
普 通 預 金	796,107	【正味財産】	
立 替 金	105,030	正 味 財 産	1,024,556
		(うち当期正味財産増加額)	(△245,301)
資 産 合 計	1,049,707	負債及び正味財産合計	1,049,707

監査報告書

3R活動推進フォーラム
会長 武内 和彦 様

3R活動推進フォーラムの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの平成24年度における事業報告書及び収支決算書について監査した結果、いずれも適正に処理されていると認めます。

平成25年4月15日

監事 公益社団法人 全国都市清掃会議

専務理事

佐々木五郎 

監事 スチール缶リサイクル協会

専務理事

酒巻弘之 

<第2号議案> 平成25年度 3R活動推進フォーラム事業計画(案)

第2次循環型社会形成推進基本計画に基づき、環境の保全を前提とした循環型社会と低炭素社会・自然共生社会を統合した「持続可能な社会」の構築に向け、各主体とのパートナーシップを図りつつ、地域循環圏の構築、各主体が連携・協働した3R推進活動などの取組みが求められています。

そこで、3R活動推進フォーラムでは、平成25年度の事業計画として、3R推進全国大会や3R促進ポスターコンクールなどへの取組みに加え、自治体会員の入会促進及び会員団体相互の連携・協働による3Rセミナーなどの開催とともに、広報普及活動、会員サービスの充実を図るため、以下の事業を実施する。

I 組織運営

3R活動推進フォーラムの円滑な運営を図るため、理事会、総会を開催し、事業計画や予算及び決算等を決定する。また、関係省庁、学識者、関係団体等で構成する企画運営委員会を開催し、今後の事業について意見交換を行う。

1. 理事会及び総会

- 開催日時：平成25年4月26日（金）
- 議 題：①平成24年度事業報告及び決算について
②平成25年度事業計画及び予算について
③その他

2. 企画・運営委員会

- 開催時期：年1～2回
- 議 題：今後の事業等について

II 会員の強化・拡充

自治体及び団体会員の入会を促進し、会員の強化・拡充を図る。

1. 自治体会員

会費の無料化によって、自治体会員の入会が増えているが、引き続き都道府県会員の増強及び政令指定都市等の入会を促進する。

2. 団体会員等

団体会員等への情報提供、連携強化を推進し、会員の入会促進を図る。

III 3R推進全国大会関連事業

今年度は、第8回3R推進全国大会を開催するとともに、大会式典で表彰する3R促進ポスターコンクールを実施する。

1. 3R推進全国大会の開催

「第8回3R推進全国大会（以下「3R推進全国大会」という。）」を環境省、環境省関東地方環境事務所、栃木県、3R活動推進フォーラムにより開催する。

□開催期日 平成 25 年 10 月 17 日（木）

□開催場所 栃木県総合文化会館サブホール(栃木県宇都宮市本町 1-8)

2. 3R促進ポスターコンクールの実施

3 R 促進ポスターコンクールは環境省と毎年実施しているもので、小学生、中学生を対象に 3 R を通じて循環型社会の構築を推進することをテーマとしたポスターを募集し、優秀作品に選定された児童・生徒を表彰するとともに、優秀作品を全国の 3 R 活動推進に活用する。

3. 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦

平成 18 年度より環境省が実施している循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰について、平成 25 年度も会員団体から循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体について会員団体からの推薦に基づき、当フォーラムから環境省に対して推薦を行う。

IV 連携・協働事業

行政、民間団体、企業、NPO 等と連携・協働して、循環型形成推進セミナーや研修・学習相談事業等を推進する。

1. 循環型社会形成推進セミナーの開催

行政、民間団体、企業、NPO 等と連携・協働して、循環型形成推進セミナーを 5 回程度開催する。

（参考）平成 24 年度は 8 団体と 13 回開催した。

2. 年次報告会開催

（公財）廃棄物・3 R 研究財団と年次報告会を開催する。

3. 研修・学習相談事業

会員団体と連携して、研修・学習相談事業を行う。

4. 3R推進地方大会への協力

地方環境事務所が中心となって開催する 3 R 推進地方大会に対して後援等の協力を行う。

5. その他後援・協賛等

関係団体の開催イベントに後援・協賛や講師派遣、参加等の協力を行う。

V 広報普及活動

3 R の普及啓発のため、「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施、関連展示会への出展、メルマガの発信、各種出版物の発行などを行う。

1. 「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施

環境省、経済産業省とともに「環境にやさしい買い物キャンペーン」の実施を都道府県、流通事業者に呼びかける。

2. 展示会への出展

（1）エコライフ・フェア 2013 への出展

環境省が毎年環境月間に代々木公園で開催するエコライフ・フェアに出展する。

(2) 3R推進地方大会併催環境展等への出展

3R推進地方大会で開催される環境展等地方で開催される環境展に出展する。

3. 出版物の発刊

(1) 「財団・3Rだより」の発刊

「財団・3Rだより」を引き続き年3回（7月・1月に通常号、11月に会員特集号）発行す

(2) 年次報告書2013版の発刊

3Rフォーラムの平成24年度の活動状況等を事業年報（5月頃作成予定）としてとりまとめる。

(3) その他の出版物の発刊

3R活動先進事例集等を発刊する。

4. インターネットを活用した情報発信

(1) ホームページによる情報発信

(2) メルマガ「3R・廃棄物ニュース」（月3回）の配信

(3) 3Rフォーラム事務局通信（会員向けに月1回）の配信

5. 3R啓発ポスターの作成

年間を通して使用できる3R推進の啓発用ポスターやカレンダー及び「環境にやさしい買い物キャンペーン」用のポスター等の印刷して使用できるデータを作成し、希望者に提供する。

6. 専門新聞・雑誌の活用

専門新聞・雑誌の取材に積極的に協力するとともに、3Rフォーラムの事業について記事掲載等による周知を図る。

VI 会員サービスの充実

組織の強化・拡充と相俟って、会員サービスの充実を図る。

1. 会員との連携協働事業の推進

会員との共催によるセミナー開催等連携協働事業の推進により、内容の充実、コスト削減等に寄与する。

2. 会員への情報提供の拡充

(1) 「財団・3Rだより」の年3回発行（前掲）

「財団・3Rだより」通常号を7月と1月に、また会員特集号を11月に発行する。

(2) 会員ページによる情報提供

ホームページの会員ページで会員向けの情報提供を行う。

(3) 事務局通信の配信

会員向けの事務局通信を引き続き毎月1回配信する。

(4) 各種出版物の配布

当フォーラムの各種出版物を会員に配布する。

3. 会員情報の発信

(1) メルマガによる情報発信（前掲）

毎月3回配信しているメルマガ「3R・廃棄物ニュース」で、会員のイベント情報等を掲載する。

(2) ホームページによる情報発信

会員情報をホームページに掲載する。

(3) 財団だより会員特集号の発行（前掲）

年1回、財団・3Rだより会員特集号を発行し、会員の取り組み等を紹介する。

4. 会員割引料金による資料等提供

(1) (公財) 廃棄物・3R研究財団との共催による年次報告会の資料（一般参加者は有料）は会員に無料で提供する。

(2) (公財) 廃棄物・3R研究財団が発行する「ブック財団」（有料頒布）について会員割引料金で提供する。

5. 3Rグッズの制作・配布

(1) 統一3Rグッズの制作

会員から希望の多いグッズを3R活動推進フォーラムでまとめて統一グッズとして制作し、より安価に提供する。

(2) 3R啓発ポスターデータの制作・提供

3R推進キャンペーンポスターとして使用できる、3R促進ポスターコンクール入賞作品をデザインしたポスターデータ等を制作し、会員希望者に無料で提供する。

Ⅶ 調査研究の実施

1. (公財) 廃棄物・3R研究財団の3R関連調査研究への協力

2. 資源循環を推進するための調査等の実施

平成25年度 収支予算書(案)

自 平成25年 4月 1日
至 平成26年 3月31日

1.収入の部

(単位:円)

科 目	平成25年度 予算額	平成24年度 決算額	差引額	
1 会 費 収 入	4,500,000	4,500,000	0	
2 事 業 収 入	500,000	668,250	△ 168,250	
3 利 息 収 入	600	653	△ 53	
当期収入合計	5,000,600	5,168,903	△ 168,303	
前期繰越収支差額	1,024,556	1,269,857	△ 245,301	
収入合計	6,025,156	6,438,760	△ 413,604	

2.支出の部

科 目	平成25年度 予算額	平成24年度 決算額	差引額	
1 普 及 啓 発 費	1,800,000	1,951,874	△ 151,874	
(1) 企 画 等 運 営 費	400,000	410,220	△ 10,220	
(2) 3 R 推 進 大 会 費	400,000	263,455	136,545	全国大会及び地方大会
(3) セミナー等開催費	600,000	664,647	△ 64,647	
(4) 広 報 活 動 費	400,000	613,552	△ 213,552	美化キャンペーン、エコ ライフフェア等
2 管 理 費	3,180,000	3,462,330	△ 282,330	
(1) 業 務 委 託 費	2,730,000	3,015,000	△ 285,000	
(2) その他管理費	450,000	447,330	2,670	HP保守料、宅急便代等
当期支出合計	4,980,000	5,414,204	△ 434,204	
当期収支差額	20,600	△ 245,301	265,901	
次期繰越収支差額	1,045,156	1,024,556	20,600	

注) 業務委託費は人件費及び家賃等の一部を(公財)廃棄物・3R研究財団に委託するもの。

2. 企画・運営委員会

平成24年度企画・運営委員会を2月27日（水）午後3時から(公財)廃棄物・3R研究財団会議室で開催いたしました。これには、環境省から廃棄物・リサイクル対策部循環型社会推進室の河本室長にご出席いただいたのをはじめ、経済産業省、国土交通省、農林水産省の関係各省からご出席いただきました。

委員会では、平成24年度の事業実施状況をご報告するとともに、平成25年度の事業計画（案）などについてご意見をいただきました。

【出席者】

<委員>

鬼沢良子（NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長）

木村尊彦（東京都環境局 廃棄物対策部長）

栗原雅夫（川口市環境部 次長）

佐久間信一（代理）（(株)ダイナックス都市環境研究所 取締役副所長）

中石一弘（(株)エックス都市研究所環境エンジニアリング事業本部 副本部長）

新妻章弘（代理）（建設副産物リサイクル広報推進会議）

三浦佳子（消費生活コンサルタント）

<オブザーバー>

河本晃利（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課 循環型社会推進室長）

皆川祐哉（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室循環企画係長）

霜田康司（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室）

渡部宏道（経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課排出抑制促進係長）

増田仁（国土交通省総合政策局公共事業企画調整課環境・リサイクル企画室調整官）

牧野将士（農林水産省食糧産業局バイオマス循環資源課課長補佐）

森本洋（(株)環境産業新聞社 取締役会長）

小峰且也（(株)環境新聞社 専務取締役）

新倉充（日報ビジネス(株) 環境編集部課長）

<事務局>

八木美雄（3R活動推進フォーラム 専任理事）

藤本正（3R活動推進フォーラム 事務局長）

藤波博（3R活動推進フォーラム 調査部長）

平成24年度企画・運営委員会

（平成25年2月27日（公財）廃棄物・3R研究財団会議室）



II 組織・規約

1. 役員等(平成25年5月30日現在)

会 長	武内 和彦	東京大学サステイナビリティ学連携研究機構 教授
副 会 長	杉戸 大作	前・(財)廃棄物研究財団 理事長
専任理事	八木 美雄	(公財)廃棄物・3R研究財団 専務理事
理 事	石井 邦夫	(公社)全国産業廃棄物連合会 会長
理 事	宇田川育男	日本環境保全協会 会長
理 事	大熊 洋二	(公社)全国都市清掃会議 会長
理 事	小川 賢治	(一社)日本経済団体連合会環境安全委員会廃棄物・リサイクル部会長
理 事	長田 守弘	(一社)廃棄物資源循環学会 副会長
理 事	北橋 建治	建設副産物リサイクル広報推進会議 会長
理 事	西藤 久三	(財)食品産業センター 理事長
理 事	崎田 裕子	(NPO)持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長
理 事	末吉 興一	(公財)国際東アジア研究センター 理事長
理 事	中鉢 良治	(一財)家電製品協会 理事長
理 事	藤村コノエ	(NPO)環境文明21 共同代表
理 事	三井 崇裕	(一社)全国清掃事業連合会 会長
		(理事 50音順)
監 事	酒巻 弘三	スチール缶リサイクル協会 専務理事
監 事	佐々木五郎	(公社)全国都市清掃会議 専務理事
		(監事 50音順)
顧 問	愛知 和男	(社)全国地区衛生組織連合会 会長
顧 問	加藤 三郎	(株)環境文明研究所 代表取締役・所長
顧 問	庄子 幹雄	(NPO)環境立国 理事長
顧 問	細田 衛士	慶應義塾大学 経済学部 教授
		(顧問 50音順)

2. 事務局

(1) 体制

専任理事 八木 美雄 ((公財) 廃棄物・3R研究財団専務理事)
事務局長 藤本 正
調査部長 藤波 博 ((公財) 廃棄物・3R研究財団兼任)
事務局員 秋元 由美

(2) 住所

〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F(公財)廃棄物・3R研究財団内
TEL : 03-6908-7311 FAX : 03-5638-7164
E-mail : info@3r-forum.jp

3. 会員

3R活動推進フォーラム 会員一覧

H25.5. 29項

No.	団体名	No.	団体名	No.	団体名
自治体会員		37	長崎県	28	全国生活学校連絡協議会
1	北海道	38	熊本県	29	(一社)全国清掃事業連合会
2	青森県	39	大分県	30	(一社)全国清涼飲料工業会
3	岩手県	40	沖縄県	31	全国地域婦人団体連絡協議会
4	宮城県	41	大阪市	32	(社)全国地区衛生組織連合会
5	山形県	42	神戸市	33	(公社)全国都市清掃会議
6	茨城県	43	目黒区	34	(財)全国老人クラブ連合会
7	栃木県	44	豊島区	35	全日本自治団体労働組合
8	群馬県	45	荒川区	36	電気事業連合会
9	埼玉県	46	岩見沢市	37	日本環境安全事業(株)
10	千葉県	47	川口市	38	(一社)日本環境衛生施設工業会
11	東京都	48	船橋市	39	(一財)日本環境衛生センター
12	かながわ3R推進会議 (神奈川県、横浜市、相模原市、横須賀市)	49	東海市	40	(公財)日本環境協会
		50	佐賀市	41	(公財)日本環境整備教育センター
13	新潟県	計50会員		42	日本環境保全協会
14	富山県	民間団体会員		43	日本化粧品工業連合会
15	石川県	1	(公財)あしたの日本を創る協会	44	日本鉱業協会JMIA
16	福井県	2	アルミ缶リサイクル協会	45	日本再生資源事業協同組合連合会
17	長野県	3	大阪湾広域臨海環境整備センター	46	(公財)日本産業廃棄物処理振興センター
18	岐阜県	4	(一財)家電製品協会	47	(財)日本消費者協会
19	静岡県	5	紙製容器包装リサイクル推進協議会	48	(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
20	ごみゼロ社会推進あいち県民会議 (愛知県、名古屋市、豊橋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、豊川市、津島市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、蒲郡市、犬山市、常滑市、江南市、小牧市、稲沢市、新城市、東海市、大府市、知多市、知立市、尾張旭市、高浜市、岩倉市、豊明市、日進市、田原市、愛西市、清州市、北名古屋市、弥富市、みよし市、あま市、長久手市(以上38市他14町2村、11一部事務組合))	6	ガラスびんリサイクル促進協議会	49	(一社)日本自動車工業会
		7	(一社)環境衛生施設維持管理業協会	50	日本生活協同組合連合会
		8	NPO法人環境技術支援ネットワーク	51	(一社)日本即席食品工業協会
		9	(公社)環境生活文化機構	52	(一社)日本鉄鋼連盟
		10	NPO法人 環境文明21	53	(一社)日本廃棄物コンサルタント協会
21	三重県	11	(一社)京都府産業廃棄物3R支援センター	54	(一社)日本パン工業会
22	滋賀県	12	NPO法人 グリーンコンシューマー東京ネット	55	日本百貨店協会
23	京都府	13	建設廃棄物協同組合	56	NPO日本ファイバーリサイクル推進協会
24	大阪府	14	建設副産物リサイクル広報推進会議	57	(社)日本PTA全国協議会
25	兵庫県	15	(独)国立環境研究所	58	(一社)日本有機資源協会
26	奈良県	16	NPO最終処分場技術システム研究協会	59	日本労働組合総連合会
27	和歌山	17	(公財)産業廃棄物処理事業振興財団	60	(一社)廃棄物資源循環学会
28	鳥取県	18	NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット	61	(公財)廃棄物・3R研究財団
29	島根県	19	(財)食品産業センター	62	(一社)パソコン3R推進協会
30	岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議 (岡山県、岡山市、津山市)	20	(公社)食品容器環境美化協会	63	びん再使用ネットワーク
		21	スチール缶リサイクル協会	64	(一社)プラスチック循環利用協会
31	広島県	22	石油連盟	65	プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
32	山口県	23	全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会	66	PETボトルリサイクル推進協議会
33	香川県	24	全国環境整備事業協同組合連合会	67	(公財)水と緑の惑星保全機構
34	愛媛県	25	全国牛乳容器環境協議会	計67会員	
35	高知県	26	(公社)全国産業廃棄物連合会	会員合計117団体	
36	佐賀県	27	(社)全国浄化槽団体連合会		

4. 3R活動推進フォーラム 規約

平成18年	5月31日	総会決定
平成19年	5月22日	一部改正
平成21年	5月12日	一部改正
平成22年	4月28日	一部改正
平成22年	4月24日	一部改正

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本団体は、3R活動推進フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(所在地)

第2条 フォーラムは、事務所を東京都内に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 フォーラムは、国民、事業者、行政、研究機関等が一体となって発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3Rによる循環型社会づくりを推進することを目的とする。

(事 業)

第4条 フォーラムは、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 3Rに関する研鑽・啓発
- (2) 3Rに関する先進的事業の実施・支援
- (3) 3Rに関する調査研究の実施・支援
- (4) 3Rに関する国内外の情報の収集、提供
- (5) 前4項に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会 員)

第5条 フォーラムの会員は、フォーラムの目的に賛同して入会した団体をもって構成する。

(入 会)

第6条 フォーラムの会員になろうとする団体は、フォーラムの趣旨に賛同し、入会申込書の提出をもつて会員とする。

(負担金)

第7条 会員は、総会において別に定めるところにより、負担金を納入しなければならない。
2 自治体会員は負担金を免除する。

(退 会)

第8条 会員がフォーラムを退会しようとするときは、その旨を届け出なければならない。

第4章 組織及び運営

(役 員)

第9条 フォーラムに次の役員を置く。

- 理事 30名以内
監事 2名

- 2 理事及び監事は総会において選任する。
- 3 理事のうち1名を会長、5名以内を副会長とし、それぞれ総会において選出する。
- 4 会長は、フォーラムを代表し、会務を総括する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 監事は、フォーラムの会計を監査する。
- 7 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(顧問)

第10条 本会に顧問(若干名)をおくことができる。顧問は理事会の承認を得て会長が指名する。顧問の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 顧問は、会長の求めに応じて本会の運営に関して助言をする。

(総会及び理事会)

第11条 フォーラムの議決機関として、総会及び理事会を置く。

- 2 総会は会長が招集し、役員任免、事業計画及び予算の決定、事業報告及び決算の承認、その他理事会が必要と認めた事項を審議し、議決する。
- 3 理事会は、会長が招集し、総会に付議すべき事項のほか、フォーラムの運営に関する重要な事項を議決する。

(企画・運営委員会)

第12条 フォーラムの組織、制度、事業計画について審議するため、企画・運営委員会を設置することができる。

- 2 企画・運営委員会の運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

(事業計画及び予算)

第13条 フォーラムの事業計画及び予算は、会長が作成し、理事会及び総会の議決を経なければならない。ただし、次の総会までの期間に係る事務局運営費については、総会において事後承認することができる。

(事業報告及び決算)

第14条 フォーラムの事業報告及び決算は、毎会計年度終了後、3ヶ月以内に会長が事業報告書、収支決算書として作成し、監事の監査を経て理事会及び総会の承認を得なければならない。

(会計年度)

第15条 フォーラムの会計年度は1年とし、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 フォーラムの事務を処理するため、事務局を(公財)廃棄物・3R研究財団に置く。

- 2 事務局の組織及び運営に関して必要な事項は、理事会が別に定める。

第5章 雑 則

(委任)

第17条 この規約の施行について必要な事項については、理事会の決定するところによる。

附 則

この規約は、平成18年5月31日から施行する。

この規約の一部改正は、平成19年5月22日から施行する。

この規約の一部改正は、平成21年5月12日から施行する。

この規約の一部改正は、平成22年4月28日から施行する。

この規約の一部改正は、平成24年4月24日から施行する。

(参 考)

3R活動推進フォーラム 負担金に関する規定

平成18年5月31日 総会決定

平成22年4月28日 一部改正

規約第7条に基づき、次のとおりとする。

- 第1 会員は年会費として10万円を納付しなければならない。
- 第2 自治体会員の負担金は免除する
- 第3 規約第6条に基づき入会するに際し、会費の納入が困難である等特別の事情がある場合には、第1の規定にかかわらず会費の納入を免除することができる。
- 第4 負担金は、5月末日までに納付するものとする。

5. 3R 活動推進フォーラム 企画・運営委員会設置要領

平成21年 5月12日理事会決定

(目 的)

第1条 3R活動推進フォーラム（以下 「フォーラム」という。）規約第12条により、フォーラムに企画・運営委員会（以下 「委員会」という。）を設置し、理事会から付託された事項または、会長より諮問された事項について審議することを目的とする。

(構 成)

第2条 委員会は、会員及び会員外の有識者をもって構成する。

(任 期)

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により選任する。

(招 集)

第5条 委員会は、会長が招集する。

(委員会)

第6条 委員会は、フォーラムの組織、制度、事業計画について必要となる事項について審議する。

2 委員会は、審議に必要な調査を行うことができる。

3 委員会は、審議に必要と認める場合は、その目的に相応しい関係者を出席させることができる。

(審議事項の処理)

第7条 委員長は、委員会で審議決定した事項及び経過を理事会に報告し、または会長に答申しなければならない。

(附 則)

この要領は平成21年5月12日から施行する。

6. 「3R活動推進フォーラム」について

(1)「3R活動推進フォーラム」の沿革—ごみ減量化から3Rへ—

「3R活動推進フォーラム」の前身は、平成4年に設立された「ごみ減量化推進国民会議」にあります。平成3年(1991)10月、「廃棄物処理法」が改正され、従来からのごみの適正処理に加え、排出抑制、再生利用(リサイクル)等による「ごみ減量化」の推進が大きな柱(法目的)として加えられ、同時に国民、事業者、国及び地方公共団体にあつて、ごみ減量化の積極的推進が求められることとなりました。そのため、「ごみ減量化」を強力に推進するため、幅広い国民運動を展開する機関として、平成4年(1992)9月、「ごみ減量化推進国民会議」が(社)全国都市清掃会議を事務局として設立されました。その後、同会議では、全国大会開催とは別に、再生紙利用促進、自動販売機の在り方、包装について具体的な検討作業を精力的に行っています。その結果、平成7年(1995)6月には、再生紙マーク(Rマーク)の設定、「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」の制定などが行われています。

平成12年(2000)6月、「循環型社会形成推進基本法」が公布されました。21世紀を迎え持続可能な社会を構築するためには、「ごみゼロ型社会」すなわち「循環型社会」への転換を推進することが強く求められることとなりました。そのため、平成14年(2001)7月、「ごみ減量化推進国民会議」から、更に一步踏み込んだ「ごみゼロ型社会造り」(循環型社会造り)の活動へと進むべく、「ごみゼロパートナーシップ会議」へと改称されました。

平成16年(2003)6月、米国シーアイランドで開催されたG8サミットにおいて、小泉元総理は、3R(ごみの発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle))を通じた循環型社会の形成を目指す「3Rイニシアティブ」を提唱し、G8各国の首脳の合意を得ました。翌平成17年(2004)4月、我が国は「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」(ゴミゼロ国際化行動計画)を発表し、国内での循環型社会づくりを基礎として3Rの国際的推進に主導的役割を果たすことを世界に宣言しました。こうした国際的な動きを踏まえ、我が国の循環型社会づくりの一層の加速化と地球規模での循環型社会の形成に寄与することが求められてきました。そのため、3Rに関する社会的取組や先進的技術による取組をさらに進めるほか、会員相互の連携した活動の展開など、循環型社会への変革を強く意識した3R活動を一層推進するため、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ、平成18年(2006)1月、「3R活動推進フォーラム」(会長:小宮山宏東京大学総長)が発足しました。そして、平成19年(2007)5月、(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団(平成23年12月に(公財)廃棄物・3R研究財団に移行)に事務局が移り、現在に至っています。

平成22年4月の総会では、武内和彦東京大学大学院教授に会長に就任していただくとともに、自治体会員の会費を免除する規約改正を決定し、組織及び事業推進についての強化を図った結果、現在、自治体会員50、民間会員67、合わせて117会員(平成25年5月末現在)となっています。

(2)事業活動

3R活動推進フォーラムは、①3Rに関する研鑽・啓発、②3Rに関する先進的事業の実施・支援、③3Rに関する調査研究の実施・支援、④3Rに関する国内外の情報の収集、提供等に関連する事業を実施しています。具体的には、3R推進全国大会(10月)の開催、3R促進ポスターコンクールや環境にやさしい買い物キャンペーンの実施、連携・協働事業としてのセミナー・研修会などの開催、3R推進地方大会などへの協力の他、循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推

薦など幅広く事業を展開しています。

平成25年度の事業計画については、4月26日の総会において承認されました。第3次循環型社会形成推進基本計画の実施などを踏まえ、国内外での対応強化が求められていることから、毎年開催している3R推進全国大会などへの取り組みに加え、この基本計画が求めている循環型社会の形成や各主体が連携・協働した取組に貢献すべく、以下に示す事業を実施することとしています。

1) 3R推進全国大会関連事業

平成24年度は、東京都内で3R推進全国大会を開催することとしており、併せて3R促進ポスターコンクール、循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦も実施する。

2) 連携・協働事業

フォーラムの会員団体などとのセミナー等の共同開催や3R推進地方大会等への協力・後援等による連携を強化し、3R活動の推進事業の推進、拡大に努める。

3) 環境にやさしい買い物キャンペーンの実施

環境省、経済産業省、3R活動推進フォーラムが行う「環境にやさしい買い物キャンペーン」を、10月の3R月間として実施し、その実績について報告書にとりまとめ関係者に配布する。

4) 研修・学習相談事業

自治体及び会員団体を対象に3R・資源循環に関する研修・学習相談事業のニーズを把握し、具体化を検討する。

5) 広報普及事業

フォーラムの活動状況を「財団・3Rだより」（年3回発行）、年次報告書などにとりまとめ広報に努めるとともに、メルマガ「3R・廃棄物ニュース」の配信、ホームページ、展示会への出展等を通して、広く3Rの推進を啓発・普及していく

(3)おわりに—フォーラムの今後—

小泉元総理は、「日本の3R推進の経験—循環型社会の構築に向けて—」（環境省、2005年4月）において、「環境保護と経済発展を両立する実現する鍵は科学技術にあります。ごみを減らし、使えるものはくり返し使うというモノを大切に作る「もったいない」という心が科学技術と結びついた時に、大きな力を発揮すると思います。」と述べています。これからは、「もったいない」というマインド、すなわち2R（ごみの排出量を減らすこと（Reduce）、使えるものは使うこと（Reuse））という先達のノウハウを明確に把握しながら、廃棄物・リサイクル関連技術の確立にも努める必要があります。

このような大きな命題を前にしたフォーラムですが、限られた人的・予算資源の中で、一步一步、実績を着実に積み上げ関係各位からの信頼を勝ち得て、3R活動分野の調整役（コーディネーター）の重責を果すことが求められています。今後とも、3R業務の推進に全力を尽くす所存ですので、国、地方公共団体、関係団体、NPOをはじめ関係各位のご指導、ご協力をお願いするものです。

<参考資料1> 3R活動推進フォーラムの沿革「ごみ減量化から3Rへ」

平成4年（1992） 9月 「ごみ減量化推進国民会議」発足

平成14年（2002） 7月 「ごみゼロパートナーシップ会議」に改組

平成18年（2006） 1月 「3R活動推進フォーラム」に改組

平成19年（2007） 4月 「3R活動推進フォーラム」事務局、(財)廃棄物研究財団（現・(公財)廃棄物・3R研究財団）に移る

<参考資料2>

3R関係年表

平成 元年 (1989)	6月、東京都、ごみ減量キャンペーン「TOKYO SLIM89」 8月、財団法人廃棄物研究財団設立 12月、鈴木都知事、都議会でゴミの非常事態を宣言
2年 (1990)	3月、廃棄物学会設立 10月、株価暴落し、バブル景気の崩壊 12月、「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」(旧ガイドライン)
3年 (1991)	6月、「再生資源利用促進法」公布 10月、「廃棄物処理法」改正され、法の目的にごみの減量化・発生抑制、再生(リサイクル)の推進が導入された
4年 (1992)	6月、地球サミット、リオ・デジャネイロで開催 9月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> の設立総会を岡山市で開催 9月、 第1回ごみ減量化推進全国大会 (岡山県、岡山市)
5年 (1993)	11月、「環境基本法」公布 第2回ごみ減量化推進全国大会 (東京都)
6年 (1994)	5月、「再生紙利用促進のための具体的行動目標」採択 9月、 第3回ごみ減量化推進全国大会 (大阪府、大阪市) 12月、「環境基本計画」発表、循環、共生、参加、国際的取り組み
7年 (1995)	6月、「容器包装リサイクル法」公布 6月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、「包装・容器の減量化に関する指針」採択、「再生紙使用マーク」(Rマーク)設定 「マイ・バッグ・キャンペーン運動実施要領」制定 9月、 第4回ごみ減量化推進全国大会 (千葉県、千葉市)
8年 (1996)	10月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、「PET ボトルのあり方についての検討委員会報告書」発表 10月、 第5回ごみ減量化推進全国大会 (福岡県、福岡市、北九州市)
9年 (1997)	1月、「ごみ処理におけるダイオキシン類発生防止ガイドライン」(新ガイドライン) 6月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、「再生紙利用促進のガイドライン」採択 10月、 第6回ごみ減量化推進全国大会 (宮城県、仙台市)
10年 (1998)	6月、「家電リサイクル法」公布 6月、 <u>ごみ減量化推進国民会議</u> 、再生紙利用促進のガイドライン(改正)採択 10月、 第7回ごみ減量化推進全国大会 (兵庫県、神戸市) 「地球温暖化対策法」公布
11年 (1999)	7月、「ダイオキシン類対策特別措置法」公布 10月、 第8回ごみ減量化推進全国大会 (埼玉県、浦和市)
12年 (2000)	5月、「建設リサイクル法」、「グリーン購入法」公布 6月、「循環型社会形成推進法」、「食品リサイクル法」、「資源有効利用促進法」公布 10月、 第9回ごみ減量化推進全国大会 (広島県、広島市)
13年 (2001)	1月、中央省庁再編により環境省が廃棄物・リサイクル行政を所管 10月、 第10回ごみ減量化推進全国大会 (北海道、札幌市)
14年 (2002)	7月、「自動車リサイクル法」公布 7月、 第10回総会 、「 <u>ごみゼロパートナーシップ会議</u> 」に改称 11月、 第1回ごみゼロ推進全国大会 (徳島県、徳島市)

15年 (2003)	3月、「循環型社会形成推進基本計画」公表 10月、 第2回ごみゼロ推進全国大会 （富山県、富山市）
16年 (2004)	6月、G8シーアイランドサミット（米国）、小泉首相が3Rイニシアティブを提唱し合意される 10月、 第3回ごみゼロ推進全国大会 （静岡県、静岡市）
17年 (2005)	2月、「京都議定書」発効 4月、「3Rイニシアティブ閣僚会合」を東京で開催 「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」（ごみゼロ国際化行動計画）発表 10月、 第4回ごみゼロ推進全国大会 （長崎県、佐世保市）
18年 (2006)	1月、「ごみゼロパートナーシップ会議」を拡充発展させ「 3R活動推進フォーラム 」発足 3月、「3Rイニシアティブ高級事務レベル会合」を東京で開催 7月、会長に小宮山宏東京大学総長が就任 10月、 第1回3R推進全国大会 （愛知県、名古屋市）
19年 (2007)	5月、 <u>事務局が(社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団に移る</u> 「ごみ不法投棄監視ウィーク」がスタート 6月、「21世紀環境立国戦略」閣議決定、「3Rを通じた持続可能な資源循環」を推進 G8ハイリゲンダムサミット（独）、地球温暖化問題が最重要課題の一つとなる 安倍首相「美しい星50(クールアース50)を提案 10月、 第2回3R推進全国大会 (福岡県、北九州市)
20年 (2008)	3月、「循環型社会形成推進基本計画」改訂 7月、北海道洞爺湖G8サミット 10月、 第3回3R推進全国大会 （山形県、山形市）
21年 (2009)	10月、 第4回3R推進全国大会 （千葉市）
22年 (2010)	4月、会長に武内和彦東京大学大学院教授が就任 5月、廃棄物処理法改正公布 11月、 第5回3R推進全国大会 (佐賀県、佐賀市)
23年 (2011)	8月、東日本大震災により生じた廃棄物の処理の特例に関する法律公布 8月、「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」公布 10月、 第6回3R推進全国大会 （京都市） 12月、(公財) 廃棄物・3R研究財団設立
24年 (2012)	8月、特定産業廃棄物特別措置法一部改正法律公布 8月、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律公布 10月、 第7回3R推進全国大会 （東京都内）
25年 (2013)	10月、 第8回3R推進全国大会 （栃木県）開催予定

Ⅲ 平成 24 年度事業概要

1. 第 7 回 3R推進全国大会

(1)全体概要

3 R 推進全国大会は、国民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会形成に関するそれぞれの知識や経験を交換するとともに、参加者一人一人が自らのライフスタイルを見直す機会を提供することを通じ、ごみの減量・再資源化などの 3 R 推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組みを推進することを目的に毎年開催されており、平成 24 年度の第 7 回大会は環境省と 3 R 活動推進フォーラムの主催により 10 月 15 日（月）に東京都内の全国都市会館で開催された。

(2)第 7 回 3R推進全国大会

1)開催概要

- 日 時 平成 24 年 10 月 15 日（月）
13:00~16:45
- 会 場 全国都市会館 2 階大ホール
（千代田区平河町 2-4-2）
- 参加者 一般市民、事業者、行政関係者
など約 230 名
- プログラム



第 1 部 記念式典

- ◇主催者挨拶 園田康博環境副大臣
武内和彦 3 R 活動推進フォーラム会長
- ◇表彰式 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰
3 R 促進ポスターコンクール表彰（最優秀賞）

第 2 部 記念シンポジウム～今後の循環型社会構築へ向けた施策の展開について～

- ◇基調講演「循環型社会構築に向けて」
鳥取環境大学サステイナビリティ研究所長 田中勝 氏
- ◇話題提供
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長 永島徹也 氏
横浜市資源循環局総務部資源政策課長 河井一広 氏
3 R 推進団体連絡会幹事長兼スチール缶リサイクル協会専務理事 酒巻弘三 氏
DOWAエコシステム株式会社リサイクル事業部長 仲 雅之 氏
- ◇パネルディスカッション

2)記念式典

①主催者挨拶(要旨)

【園田康博環境副大臣】

・環境省では、大量生産、大量消費型の経済社会から、天然資源の消費を抑制して、環境負荷ができるだけ低減される循環型社会の形成を推進している。そのため 3 R の推進を行ってき

た。また、8月に可決した小型家電リサイクル法では、レアメタルなど金属資源の回収を行って参りたい。

・本大会の循環功労者表彰は循環型社会に向けた活動で多大な貢献をいただいている個人、団体、企業を表彰させていただくものである。また、ポスターコンクールには1万点を超える応募があったと聞いている。3Rの取り組みを広げていくためには、多くの皆様にその重要性を理解していただき、実践していくことが重要と考えている。循環型社会づくりの輪が全国に広がって行くことを心から祈念している。



【武内和彦 3R活動推進フォーラム会長】

・3R活動推進フォーラムは平成18年1月に発足し、本日開催の3R推進全国大会、3R促進ポスターコンクール、環境にやさしい買い物キャンペーン、自治体や民間団体と連携した3Rセミナーなどを全国で展開し、インターネットを活用した啓発活動なども活発に行っている。

・日本は多くの資源を輸入に依存しているが、国際的な資源の需給逼迫が憂慮されており、わが国はもちろん、地球規模で循環型社会形成へ向けて3R活動を推進しなければならない事態に直面している。今、中央環境審議会の循環型社会計画部会長として循環基本計画の見直しを進めている

が、資源を適正に循環していく地域循環圏を立体的に組み合わせて、より3Rの実を上げていくことが重要で、国策の中でも3Rの重要性をうたっていきたい。

・当フォーラムは環境省、地方自治体、民間団体と連携して、今後とも循環型社会形成に向けて3R活動を推進して参りますので、皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。



②表彰式

○平成24年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰

先駆的または独創的な取組により循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業または団体を表彰するもので、個人4名、10団体、20企業が受賞しました。



園田副大臣から表彰状が授与された

○平成24年度3R促進ポスターコンクール表彰

3R促進ポスターコンクールの入賞者のうち、小学生低学年の部（1年生・2年生）、小学生中学年の部（3年生・4年生）、小学生高学年の部（5年生・6年生）、中学生の部の4部門の最優秀賞受賞者に表彰状が授与されました。





受賞者による記念撮影

平成24年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者

3 R 活動優良企業

株式会社常呂町産業振興公社

北海道

昭和54年からホタテの貝殻を漁協から購入し、土壌改良材に加工処理し、農協を通じて組合員に販売し、地域における資源循環システムを形成しています。

農事組合法人細澤牧場
株式会社アレフ

北海道

食品加工工場から排出され生ごみと牛糞からバイオガスを発生させ、輸送用ボンベに圧縮充填し、そのガスを(株)アレフの食品加工工場のボイラーの熱源として利用し、リサイクルループを形成しています。

株式会社山内組

北海道

建設現場から発生するコンクリート、アスファルト、木くずなど、廃棄物の90%以上を再資源化しました。

株式会社環境保全サービス

岩手県

独自の技術・装置を開発し、再利用が困難な廃ガラスの循環利用の拡大に貢献するとともに、普及に尽力しています。

新日鐵住金株式会社 棒線事業部 釜石製鉄所

岩手県

間伐促進による森林資源の再生のため、林地残材などの廃棄物をバイオマス石炭混焼発電で利用することにより、有価物として利用されるシステムを構築しています。

塩野義製薬株式会社 金ヶ崎工場

岩手県

事業活動における温室効果ガス排出量や廃棄物発生量の目標を設定して全社的に取り組み、11年間にわたり廃棄物の再資源化率90%を維持しています。

盛岡セイコー工業株式会社

岩手県

「廃棄物削減」という環境方針のもと、時計生産における不良品の発生率の抑制、製造工程で用いる運送用トレーの再使用、形成部品の外枠等の再利用を進め、廃棄物の最終処分量ゼロを達成しています。

株式会社小松製作所 小山工場

栃木県

2000年11月より11年間継続して産業廃棄物のゼロエミッション活動を維持継続するとともに、社員の全員参加による徹底的な分別活動を実施しています。

サントリーホールディングス株式会社
協栄産業株式会社

東京都

日本初のメカニカルリサイクルによる再生PET樹脂100%の飲料用PETボトルを導入するとともに、最薄ラベルの取組みによる資源有効活用を実施しています。

株式会社アルフォ (城南島飼料化センター)

東京都

年間3万トンの生ごみと動植物性残さを、廃食油を熱触媒として用いる製造方法により、配合飼料の原料を製造し、脱焼却によるCO₂排出量の削減と資源循環を進めています。

株式会社熊谷組

東京都

全作業所においてゼロエミッションを目指し、作業所ごとに計画書や報告書を作成し、良い取組みは全社的に水平展開するとともに、社内表彰制度を設けるなどして推進しています。

東京ボードグループ「東京ボード工業株式会社」

東京都

廃木材をパーティクルボードの原料として再生利用することにより、建設現場や各工場での木材ゼロエミッションを達成しています。

株式会社日本アクシィーズ

新潟県

昭和40年の創業以来、一般廃棄物や産業廃棄物の収集運搬、リサイクル等の中間処理・資源再生事業を展開し、廃棄物の適正処理及び減量化の推進、再生資源の有効利用を進めています。

株式会社ガイアートT・K 福井合材工場

福井県

道路舗装材(アスファルト合材)の製造過程において発生する廃棄物や排気熱の再利用など天然資源の消費抑制に努めるとともに、工場から排出される一般廃棄物の減量にも取り組んでいます。

株式会社みすず工業

長野県

事業所から排出される廃酸、廃アルカリ・汚泥等を無害化・減量化を進め、廃液から資源回収を進めるリーダー企業として事業展開をしています。

直富商事株式会社

長野県

昭和50年の会社設立以来、「全ての廃棄物を再資源化」をモットーに、産業廃棄物収集運搬業・処分業及び金属スクラップ・廃OA機器類・廃プラスチック類・廃食用油等のリサイクル事業を推進しています。

松岡コンクリート工業株式会社

岐阜県

溶融スラグ・鉄鋼スラグを用い、一部を砂と置換してコンクリートの二次製品を製造・販売するとともに、CO₂削減・遮熱塗料によるヒートアイランド対策も進めています。

NECアクセステクニカ株式会社

静岡県

工場排出廃棄物の削減及び製品回収リサイクルシステムを実現するとともに、掛川市と協働で、同社を会場に親子環境学習会や環境学習の指導者養成の学習会を実施しています。

株式会社ダイセキ

愛知県

全国規模での資源循環を推進し、リサイクル製品受入企業との製品規格の共同開発を行うとともに、排出事業者への使用薬品変更や分別管理依頼等を積極的に行い、排出事業者、リサイクル製品受入事業者3者がメリットを受ける仕組みをつくっています。

森永乳業株式会社 神戸工場

兵庫県

コーヒーかすはボイラー燃料として、液体残渣、排水汚泥はメタン発酵させてメタンガスとして取り出し、熱利用を進めるなどにより、廃棄物の発生量を大幅に削減しています。

3 R 活動推進団体

循環ネットワーク旭川

北海道

紙パックの回収運動をきっかけに行政、市民を巻き込んだ廃棄物減量化運動に発展、また、学校や福祉施設などでのリサイクルに関する実践講座を行い資源有効活用の普及啓発活動も進めています。

旭川消費者協会

北海道

昭和47年から始めた過剰包装削減の運動は、平成15年には旭川スーパーマーケット協会や市の協力のもと、全市内の運動として展開するようになりました。その他、リユース講座や出前講座、消費者セミナーなども実施しています。

ごみ減量・もったいないねット山形

山形県

「もったいない」を合い言葉に、市民・事業者・行政の3者により運動を進め、市内スーパーでの「レジ袋の無料配布の一斉中止」の中心的な役割を担うなど、県内外に大きな影響を与えました。

大平町ごみを考える会

栃木県

約10年にわたり「マイパックの持参」運動を展開し、市内の多くの小売店の巻き込んで、定期的な「マイパック持参デー」を展開するとともに、公民館などでの出前講座で3Rの普及啓発活動も行っています。

J B環境ネットワーク会

埼玉県

大手飲料事業者18社が連携して設立し、飲料空容器的資源循環の実施をするとともに、工場見学や環境出前講座、作文コンクールやシンポジウムを開催し環境教育の普及活動も進めています。

射水市立中太閤山小学校

富山県

34年間、アルミ缶などの資源集団回収を進めるとともに、地域住民と一緒に清掃美化活動を行うなど、家庭や地域社会と連携した活動を継続的に進めています。

特定非営利活動法人 いきいき

石川県

古着、古着物を回収し、「裂き織り」製品を作成販売するとともに、小中学校や町内店舗に回収ボックス設置して牛乳パックの回収を行っています。

社会福祉法人 遊歩 吾亦紅

鳥取県

地域から牛乳パックや廃食用油を集め、バイオディーゼル燃料やハガキ等を製造、老人福祉施設での紙すき教室も開催しています。

伯耆町立岸本小学校

鳥取県

給食センターと連携し食品残さを堆肥利用。また牛乳パックからハガキを製作するなど環境学習についての取組も実施しています。

特定非営利活動法人 エコネットワーク津山

岡山県

ごみの減量化と再利用を目的として設置されている施設運営や環境イベントを通じて、ごみの減量化やリユース、リサイクルの必要性等を広く市民に積極的に啓発しています。

3 R 活動推進功労個人

茂木 徹夫

群馬県

群馬県再生資源事業協同組合連合会役員として、資源の再利用・再生利用に努め、業界発展に尽力すると共に循環型社会形成に貢献してきました。

河合 優

静岡県

平成元年から三島市環境美化推進委員としてごみの分別指導や集積所の環境美化管理を率先して行うとともに、平成8年からは環境美化推進員会理事として他の環境美化推進委員の指導も積極的に実施しています。

吉住 裕昭

福岡県

筑後市環境衛生協議会の会員として地域での分別収集指導、ごみ減量化、不法投棄防止活動、環境美化活動を実施し、平成11年度からは環境衛生協議会会長として団体の先頭に立って尽力しています。

川添 克子

福岡県

長年にわたり(公社)福岡県産業廃棄物協会役員として、会員の資質向上、業界内外の啓発活動等を実施し、3R活動の推進に貢献しています。

③記念シンポジウム

【基調講演】「循環型社会構築に向けて」

鳥取環境大学サステナビリティ研究所長 田中勝 氏

・21世紀環境立国戦略部回特別部会では、環境問題には①温暖化②資源浪費③生態系の破壊を3大危機として挙げている。これらの問題を解決するために、低炭素社会、循環型社会、自然共生型社会を目指している。環境基本法では、「循環」「共生」「参加」「国際的な取組」の4つのキーワードで取り組んでいる。

・今日のテーマである「循環型社会」は、2000年に制定された循環型社会形成推進基本法で21世紀の目指すべき社会とされた。廃棄物も循環資源として再使用、再生利用し、熱回収にも活用する。これを総合的に計画的に実行するのが循環型社会形成推進基本計画である。循環型社会では、1番目に廃棄物等の発生抑制(リデュース)、2番目に再使用(リユース)、3番目に再生利用(リサイクル)、4番目に熱回収(サーマルリサイクル)、5番目に適正処分となっている。今や望ましい社会とは何か、GDPより幸福の度合い、国民総幸福度が大事という議論が始まっているが、環境も環境負荷や資源消費量ができるだけ少ないことが望ましいという議論が進められている。

・日本のごみゼロ社会を目指した取り組みを見てみると、出てきたごみを集めて処理をするという



エンド・オブ・パイプ・アプローチでは根本的な解決にはつながらないということで、生産者や消費者や処理セクターがみんなで問題の解決に当たるライフサイクル・アプローチが求められるようになり、生産者が消費後の廃棄物処理に責任をもつ拡大生産者責任ということで、環境に配慮した製品設計をするようになった。生産者が3Rに頑張っている。今や3Rもブックオフなどビジネス会社が成長している。

・廃棄物処理においても市民への利便性を忘れてはならない。トータルの費用を削減して効率的な処理を考える廃棄物マネジメントが模索されている。物質として活用するものとエネルギーとして活用するものの分別ある判断も必要だ。海外では大きな企業による静脈産業があるが、日本やアジアの廃棄物問題の解決に貢献できる静脈産業ができないといけないと思う。

【話題提供】

①循環型社会を巡る最近の状況～3Rの視点から～

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長 永島徹也 氏

②「横浜3R夢」の取組について

横浜市資源循環局総務部資源政策課長 河井一広 氏

③事業者による容器包装の3R推進等について

3R推進団体連絡会幹事長兼スチール缶リサイクル協会専務理事 酒巻弘三 氏

④国内外における静脈産業の展開・課題

DOWAエコシステム株式会社リサイクル事業部長 仲 雅之 氏



左から、永島、河井、酒

巻、仲の各氏

【パネルディスカッション】

話題提供の後、田中氏のコーディネーターにより、話題提供の4氏と参加者も交えてパネルディスカッションが行われた。



(3)関連イベント

大会当日の午前、2つのコースで施設見学が行われ、参加者は終了後大会に参加しました。

◇日時：平成24年10月15日（月）9：00～12：00

◇見学施設

- Aコース 視察先 株式会社リーテム東京工場
所在地 東京都大田区城南島大田区城南島 3-2-9)
特 徴 小型家電等廃棄物処理・再資源化の最新鋭工場。
集 合 9：00 JR大森駅東口
視察時間 10：00～11：10
参加者 40名

- Bコース 視察先 東京ペットボトルリサイクル株式会社
所在地 東京都江東区青海3丁目地先中央防波堤内側埋立地)
特 徴 都内唯一のペットボトルリサイクル専門工場
集 合 9：00 JR新橋駅日比谷口
視察時間 10：00～11：10
参加者 30名



施設見学のAコース(写真左)とBコース(写真右)

2. 3R促進ポスターコンクール

「循環型社会」の実現のために各種制度の適正な運用と併せてごみの減量と リサイクルの促進に向けて、広く国民に対してその意義を啓発することが何より重要となっており、3 R 促進ポスターコンクールは、3 R を促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考することにより、「循環型社会」の実現の啓発に資することを目的として、環境省と3 R 活動推進フォーラムが毎年実施してきた。平成 24 年度の募集は小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中学生の4 部門で行われ、絵としての出来栄え、3 R のキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度の観点から、各部門で最優秀作品 1 点、優秀作品 3 点、佳作 10 点を選定した。表彰式は第 7 回 3 R 推進全国大会記念式典で行われ、最優秀賞受賞者の 4 名に園田環境副大臣より表彰状が授与された。

(1) 応募状況

平成 24 年 5 月 1 日付環廃企発第 120501001 号環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長名で各都道府県知事あて「平成 24 年度 3 R 促進ポスターコンクールの実施について」が通知され、都道府県を通して全国の小、中学校を対象に 3 R をテーマとしたポスターの募集が行われた。

締切日の 9 月 13 日（木）（郵送、消印有効）までに、3 R 活動推進フォーラムに送付された応募総数は、小学生低学年 917 点、小学生中学年 2,480 点、小学生高学年 3,130 点、中学生 3,685 点、総計 10,212 点であった。（都道府県別・部門別応募数一覧表参照）

(2) 審査

応募作品は環境省廃・リ部長通知に示された 3 R 促進ポスターコンクール実施要領に則り、指定サイズ外のもの、糊等を使用して張り付けた立体性のあるものなど規定に外れるもの、あるいは 3 R のキャッチコピーのないものなどを除く粗選別を実施したのち、2 回の審査を経て選定された。

1) 一次審査

- 日 時 9 月 18 日（火） 13 : 00 ~ 17 : 30
- 会 場 （公財）廃棄物・3R 研究財団会議室
- 審査員 牟田幸秀東京都現代美術館学芸員
- 選定数 小学生低学年の部 34 点
小学生中学年の部 45 点
小学校高学年の部 47 点
中学生の部 52 点

2) 二次審査

- 日 時 9 月 27 日（木） 14 : 30 ~ 16 : 30
- 会 場 法曹会館 3 階 富士の間
- 審査委員 7 名



一次審査



二次審査

○選定数 一次審査で選定された作品から、部門ごとに、最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、佳作 10 点が選定された。

審査委員名簿

氏名	所属
牟田行秀	財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館学芸員
三浦佳子	消費生活コンサルタント
棚橋 乾	全国小中学校環境教育研究会会長(多摩市立多摩第一小学校校長)
永島徹也	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長
皆川祐哉	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室室企画係長
霜田康司	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室
八木美雄	3R 活動推進フォーラム専任理事

(3)表彰等

各部門の最優秀受賞者には、平成 24 年 10 月 15 日（月）に東京都内で開催された第 7 回 3 R 推進全国大会式典において表彰状が授与（前出）されるとともに、平成 24 年 10 月 15 日（月）に東京都内で開催された第 8 回 3 R 推進全国大会式典の会場内にパネル展示で紹介された。



平成24年度3R促進ポスターコンクール部門別・県別応募数

No.	都道府県	小学低学年	小学中学年	小学高学年	中学校	計
1	北海道	1	10	8	0	19
2	青森県	1	11	10	36	58
3	岩手県	0	0	47	52	99
4	宮城県	8	65	75	74	222
5	秋田県	2	2	1	13	18
6	山形県	0	23	60	35	118
7	福島県	13	27	60	80	180
8	茨城県	70	145	225	202	642
9	栃木県	81	186	236	140	643
10	群馬県	61	251	224	487	1023
11	埼玉県	72	186	207	111	576
12	千葉県	17	82	116	119	334
13	東京都	11	28	22	125	186
14	神奈川	5	17	39	38	99
15	新潟県	2	5	17	0	24
16	富山県	0	2	2	0	4
17	石川県	2	25	22	18	67
18	福井県	8	39	74	115	236
19	山梨県	2	2	0	28	32
20	長野県	2	36	96	55	189
21	岐阜県	7	39	21	53	120
22	静岡県	17	70	110	192	389
23	愛知県	425	865	982	838	3110
24	三重県	4	15	2	10	31
25	滋賀県	3	20	8	120	151
26	京都府	0	1	3	22	26
27	大阪府	2	4	6	5	17
28	兵庫県	12	30	61	113	216
29	奈良県	1	3	10	12	26
30	和歌山県	0	1	1	46	48
31	鳥取県	0	0	0	20	20
32	島根県	0	1	11	8	20
33	岡山県	0	20	7	8	35
34	広島県	0	20	20	55	95
35	山口県	3	0	12	19	34
36	徳島県	11	49	27	25	112
37	香川県	29	60	109	115	313
38	愛媛県	35	89	118	79	321
39	高知県	0	0	0	0	0
40	福岡県	0	0	0	0	0
41	佐賀県	3	5	11	49	68
42	長崎県	0	12	12	18	42
43	熊本県	3	9	17	19	48
44	大分県	0	5	5	21	31
45	宮崎県	2	9	22	47	80
46	鹿児島県	2	10	14	37	63
47	沖縄県	0	1	0	26	27
計		917	2480	3130	3685	10212

(4) 入賞作品

小学生低学年（1～2年生）の部

◆最優秀賞



加古川市立東神吉南
小学校 1年（兵庫県）

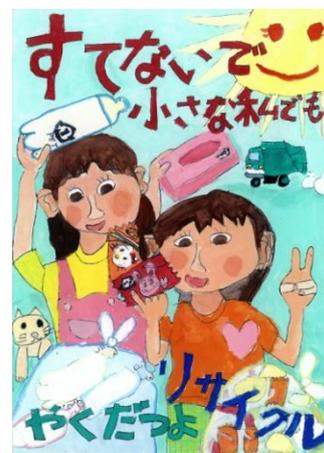
◆優秀賞



西尾市立鶴城小学校
2年（愛知県）



北名古屋市立師勝西
小学校 2年（愛知県）



松前町立北伊予小学校
2年（愛媛県伊予郡）

◆佳作



銚田市立当間小学校2年
(茨城県)

銚田市立白鳥東小学校1年
(茨城県)



館林市立第一小学校2年
(群馬県)



館林市立第八小学校2年
(群馬県)

加須市立礼羽小学校1年
(埼玉県)



南埼玉郡宮代町立東小学校
1年
(埼玉県)

稲沢市立山崎小学校1年
(愛知県)



蒲郡市立三谷小学校2年
(愛知県)

南知多町立大井小学校1年
(愛知県知多郡)



阿波市立柿原小学校1年
(徳島県)



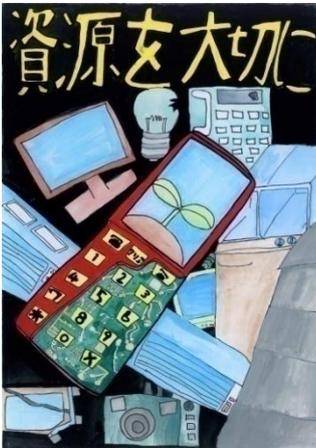
小学生中学年（3～4年生）の部

◆最優秀賞



今治市立城東小学校 4年
(愛媛県)

◆優秀賞



茂原市立萩原小学校
4年 (千葉県)



安城市立桜林小学校
3年 (愛知県)



四国中央市立上分小学校
4年 (愛媛県)

◆佳作

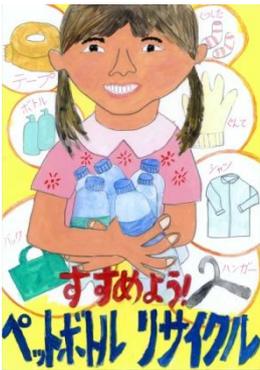


鹿沼市立北押原小学校 4年
(栃木県)

伊勢崎市立あずま小学校
4年 (群馬県)



袋井市立袋井北小学校 3年
(静岡県)



豊橋市立下地小学校 4年
(愛知県)

愛西市立佐屋小学校 4年
(愛知県)



北名古屋市立勝西小学校
4年 (愛知県)



安城市立錦町小学校 4年
(愛知県)

蟹江町立新蟹江小学校 4年
(愛知県海部郡)



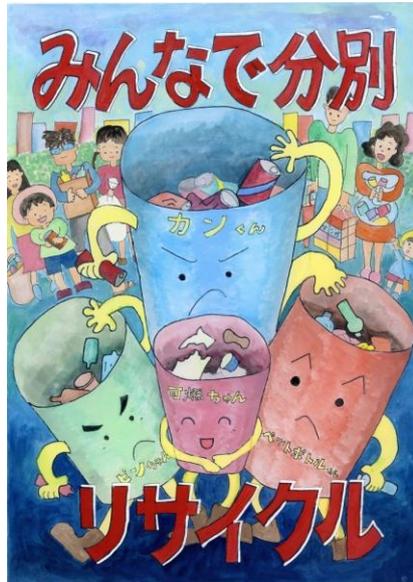
鳴門市立桑島小学校 4年
(徳島県)



松前町立北伊予小学校 4年
(愛媛県伊予郡)

小学生高学年（5～6年生）の部

◆最優秀賞



茂原市立茂原小学校 6年
(千葉県)

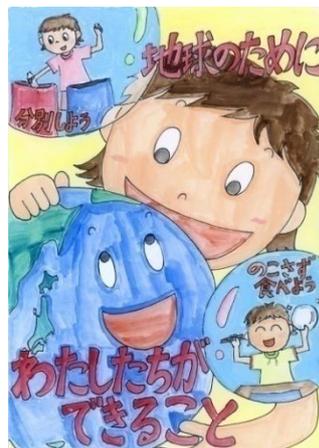
◆優秀賞



池田町立温知小学校 6年
(岐阜県揖斐郡)



呉市立白岳小学校 5年
(広島県)



四国中央市立上分小学校 5年
(愛媛県)

◆佳作

天童市立長岡小学校 6年
(山形県)



下妻市立総上小学校 5年
(茨城県)



宇都宮大学教育学部附属小学
校 6年
(栃木県)



茂原市立緑ヶ丘小学校 6年
(千葉県)



茂原市立茂原小学校 5年
(千葉県)



茂原市立茂原小学校 6年
(千葉県)



碧南市立新川小学校 5年
(愛知県)



碧南市立中央小学校 6年
(愛知県)

三豊市立比地小学校 6年
(香川県)



高松市立高松第一小学校
6年
(香川県)

中学生の部

◆最優秀賞



多賀城市立多賀城中学校 1年
(宮城県)

◆優秀賞



ひたちなか市立勝田第一
中学校 1年 (茨城県)



坂井市立坂井中学校 1年
(福井県)



刈谷市立刈谷東中学校 2年
(愛知県)

◆佳作



1年
みなかみ町立新治中学校
(群馬県利根郡)



江東区立砂町中学校2年
(東京都)



刈谷市立刈谷東中学校1年
(愛知県)



安城市立安城北中学校
2年 (愛知県)



半田市立青山中学校3年
(愛知県)



豊橋市立豊岡中学校2年
(愛知県)



長浜市立びわ中学校3年
(滋賀県)



寝屋川市立第三中学校3年
(大阪府)



呉市立広中央中学校3年
(広島県)



八代市立第四中学校3年
(熊本県)

(5)実施要領等

平成24年度3R促進ポスターコンクール実施要領

1. 目的

従来の大量生産・大量消費型の経済社会活動は、大量廃棄型の社会を形成し、環境保全と健全な物質循環の阻害に結び付く側面を有しています。我が国では、毎年、膨大な量の廃棄物が生ずるとともに、廃棄物等の多様化に伴う処理の困難化や不適正な処理による環境負荷の増大、最終処分場の残余容量のひっ迫等さまざまな局面で深刻な状況が続いています。

私たちがこのような社会経済活動を続けた場合には、廃棄物を受け入れる環境容量の制約や資源制約に突き当たることになり、社会経済の持続可能な発展に支障を来すおそれがあります。

こうした現状を踏まえると、持続可能な社会に向けてさらに努力を傾注し、低炭素社会や自然共生社会に向けた取組とも統合して、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減を目指すとともに3R（廃棄物の発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle））をはじめとした取組による、循環型社会の形成を、国内はもとより国際的にも実現していくことが喫緊の課題となっています。

また、循環型社会の形成に向けて、循環型社会形成推進基本法第15条の規定に基づき策定している「循環型社会形成推進基本計画」における国の取組として、地域、学校、家庭、職場等様々な場における連携を図りながら、単に一方的な情報発信にとどまらず、関係主体が相互に学びあえる取組を行っていくことが重要とされています。

本コンクールは、3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考・表彰することにより、国民一人一人が循環型社会のあり方について考えるきっかけになるとともに、普及啓発にも資することを目的とするものです。

2. 主催

環境省及び3R活動推進フォーラム

3. 募集方法

市町村広報誌等により募集する。

4. 募集区分（今年度から小学生の部の区分を変更しました。）

- ・小学生低学年の部（1年生、2年生）
- ・小学生中学年の部（3年生、4年生）
- ・小学生高学年の部（5年生、6年生）
- ・中学生の部

5. 締切及び提出方法

- ・応募者（作成者）は、平成24年9月7日（金）（市町村により締め切り日は変更することができる）までに住居を有する市町村循環型社会又は廃棄物担当課に作品（ポスター）を提出する。
- ・市町村は、募集区分ごとに作品（ポスター）を取りまとめの上、平成24年9月13日（木）

(消印有効)までに下記の「3R活動推進フォーラム」あて提出する。また、市町村は募集区分ごとの提出数を別紙2により、平成24年9月11日(火)までに都道府県に報告する。

- ・都道府県においては、各市町村より提出のあった報告を別紙1により集計し、市町村から提出された別紙2の(写)とともに、平成24年9月13日(木)までに「3R活動推進フォーラム」まで報告する。

6. 賞の授与

募集区分ごとに

最優秀賞	1点	賞状
優秀賞	3点	賞状
佳作	10点	賞状

を授与する。

7. 入賞作品の決定・通知

有識者等により構成する審査委員会において、募集区分ごとに優秀と認められた作品に優秀賞を、また、特に優秀と認められた作品に最優秀賞を、さらに、佳作を選定し、10月上旬頃「3R活動推進フォーラム」より都道府県を通じて本人宛通知する。

8. 表彰方法

最優秀賞は、本年10月に開催予定の「3R推進全国大会」において、環境大臣表彰を行う予定。

9. その他

- ・**応募作品は返却しないものとし、著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権は主催者に属するものとする。**
- ・入賞作品は、3R推進活動等のPR用として活用する。
- ・**なお、本件関連資料一式は別途メールにて各都道府県循環型社会関連部局あてに送付したので、ご確認願いたい。**

[提出先]

〒130-0026

東京都墨田区両国3丁目25-5 J E I 両国ビル8F

公益財団法人廃棄物・3R研究財団内

3R活動推進フォーラム あて

TEL 03-6908-7311

FAX 03-5638-7164

e-mail poscon@3r-forum.jp

各都道府県3R促進ポスターコンクール
担当者 殿

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
企画課循環型社会推進室循環企画係長

平成24年度3R促進ポスターコンクールについて

廃棄物・リサイクル行政の推進につきましては、かねてよりご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、標記については、平成24年5月1日付け環廃企発第120501001号により通知されたところではありますが、ポスターコンクールの応募に当たっては、下記の点に留意の上で応募していただくよう、管内の市町村への周知方よろしくをお願いします。

記

1. 作品（ポスター）の規格について

(1) 作品（ポスター）のサイズは、四つ切り画用紙（380mm×540mm）又は、B3版（364mm×515mm）とします。

なお、指定のサイズで応募されない場合は、無効とします。

(2) 作品の画材については、特に問いませんが、手描きとすることとし、パソコン等を使用した作品、立体性のある作品（糊等を使用して張り付けたもの）は、審査対象外とします。

(3) 応募作品の審査基準は、循環型社会の構築に向けて、3R（廃棄物等のリデュース、リユース、リサイクル）への広範な理解をより一層深めるという観点から、絵画としての評価、3Rのキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度から総合的に審査します。
(地球温暖化問題や水の節約など3Rとは異なったテーマでの応募は無効とします。)

(4) 応募は未発表のオリジナル作品に限ります。他の作品の模倣・類似と認められる作品は、入賞決定後であっても賞を取り消す場合があります。

2. 作品（ポスター）の応募方法等について

(1) 作品（ポスター）の裏面には、必要事項を記入した別紙様式を必ず貼付して下さい。（入賞者への連絡等の都合上、必ず別紙様式に必要事項を記入して作品の裏面に貼付して下さい。）

(2) 作品は、折ったり、丸めたりしないでください。

(3) 作品の応募数については、1学校につき下記の募集区分ごとに10点以内とします。

○募集区分（今年度から小学生の部の募集区分を変更しました。）

- ・小学校低学年の部（1年生、2年生）
- ・小学校中学年の部（3年生、4年生）
- ・小学校高学年の部（5年生、6年生）
- ・中学生の部

(4) 応募された作品の著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権は主催者に属し、作品は返却いたしません。

(5) 入賞作品につきましては、主催者等（主催者が認める新聞等）が作成する広報用のポスター、パンフレット等に入賞者の氏名や学校名が掲載される場合があります。

3. その他

(1) 作品の提出期限

市町村におかれましては、作品（ポスター）を募集区分ごとに取りまとめの上で、「3R活動推進フォーラム」へ平成24年9月13日（木）までに提出（消印有効）して下さい。（提出期限を越えたものはすべて無効とします。）

また、併せて市町村におかれましては、別紙2により「応募一覧表」を作成の上、募集区分ごとの作品の提出数を平成24年9月11日（火）までに都道府県に報告して下さい。

○提出先：

〒130-0026

東京都墨田区両国3丁目25-5 J E I 両国ビル8F

公益財団法人廃棄物・3R研究財団内

3R活動推進フォーラム あて

TEL 03-6908-7311

FAX 03-5638-7164

e-mail poscon@3r-forum.jp

(2) 作品の応募部数の報告

都道府県におかれましては、県内の各市町村から（1）により報告を受けた別紙2の「応募一覧表」を集計の上、県全体の作品の提出数を別紙1及び市町村から提出された別紙2の（写）とともに、平成24年9月13日（木）までに「3R活動推進フォーラム」まで報告（e-mailまたはFAX）して下さい。

なお、本件関連資料一式は別途メールにて各都道府県循環型社会関連部局あてに送付しましたので、ご確認ください。

(3) ポスターコンクールの広報

市町村において、各市町村内の小・中学校等に対して「ポスター」募集の広報等を実施される場合は、別紙3「3R促進ポスターコンクール募集について」をご活用下さい。

別紙様式

ふりがな 氏名			
年齢		学年	
作品コメント (50文字以内で、作品にこめられた環境への思いなどを書いてください。)			
ふりがな 学校名			
ふりがな 学校の住所	〒		
学校の電話番号			

*本票は、必要事項を記入の上、作品（ポスター）の裏面に貼って下さい。

＜平成24年度3R促進ポスターコンクール募集について＞

1. 趣 旨

従来の大量生産・大量消費型の経済社会活動は、大量廃棄型の社会を形成し、環境保全と健全な物質循環の阻害に結び付く側面を有しています。我が国では、毎年、膨大な量の廃棄物が生ずるとともに、廃棄物等の多様化に伴う処理の困難化や不適正な処理による環境負荷の増大、最終処分場の残余容量のひっ迫等さまざまな局面で深刻な状況が続いています。

私たちがこのような社会経済活動を続けた場合には、廃棄物を受け入れる環境容量の制約や資源制約に突き当たることになり、社会経済の持続可能な発展に支障を来すおそれがあります。

こうした現状を踏まえると、持続可能な社会に向けてさらに努力を傾注し、低炭素社会や自然共生社会に向けた取組とも統合して、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減を目指すとともに3R（廃棄物等の発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle））をはじめとした取組による、循環型社会の形成を、国内はもとより国際的にも実現していくことが喫緊の課題となっています。

また、循環型社会の形成に向けて、循環型社会形成推進基本法第15条の規定に基づき策定している「循環型社会形成推進基本計画」における国の取組として、地域、学校、家庭、職場等様々な場における連携を図りながら、単に一方的な情報発信にとどまらず、関係主体が相互に学びあえる取組を行っていくことが重要とされています。

本コンクールは、3Rを促進するための啓発用ポスターを公募し、優秀な作品を選考・表彰することにより、国民一人一人が循環型社会のあり方について考えるきっかけにするとともに、普及啓発にも資することを目的とするものです。

2. 主 催

環境省及び3R活動推進フォーラム

3. 募集区分

- ・小学生低学年の部（1年生、2年生）
- ・小学生中学年の部（3年生、4年生）
- ・小学生高学年の部（5年生、6年生）
- ・中学生の部

4. 応募規格

- (1) 作品（ポスター）のサイズは、四つ切り画用紙（380 mm×540 mm）又は、B3版（364 mm×515 mm）とします。

なお、指定のサイズで応募されない場合は、無効とします。

- (2) 作品の画材については、特に問いませんが、手描きとすることとし、パソコン等を使用した作品、立体性のある作品（糊等を使用して張り付けたもの）は審査対象外とします。
- (3) 応募作品の審査基準は、循環型社会の構築に向けて、3R（廃棄物等のリデュース、リユース、リサイクル）への広範な理解をより一層深めるという観点から、絵画としての評価、3Rのキャッチコピー、ポスターとしてのデザイン性、アピール度から総合的に審査します。（地球温暖化問題や水の節約など3Rとは異なったテーマでの応募は無効とします。）
- (4) 応募は未発表のオリジナル作品に限ります。他の作品の模倣・類似と認められる作品は、入賞決定後であっても賞を取り消す場合があります。

5. 作品（ポスター）の応募方法等について

- (1) 作品（ポスター）の裏面には、必要事項を記入した別紙様式を必ず貼付して下さい。
（入賞者への連絡等の都合上、必ず別紙様式に必要事項を記入して作品の裏面に貼付して下さい。）
- (2) 作品は、折ったり、丸めたりしないでください。
- (3) 作品の応募数については、1学校につき下記の募集区分ごとに10点以内とします。

○募集区分

- ・ 小学校低学年の部（1年生、2年生）
 - ・ 小学校中学年の部（3年生、4年生）
 - ・ 小学校高学年の部（5年生、6年生）
 - ・ 中学生の部
- (4) 応募された作品の著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権は主催者に属し、作品は返却いたしません。
- (5) 入賞作品につきましては、主催者等（主催者が認める新聞等）が作成する広報用のポスター、パンフレット等に入賞者の氏名や学校名が掲載される場合があります。

6. 締め切り

平成24年9月7日（金）

7. 応募先

お住まいの市町村循環型社会又は廃棄物担当課まで送付してください。

8. 表彰

応募区分ごとに、最優秀賞1点、優秀賞3点及び佳作10点を選定し、賞状を授与します。また、最優秀賞受賞者は、本年10月に開催予定の「3R推進全国大会」において、環境大臣表彰を行う予定としています。

3. 平成24年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦

(1) 当フォーラムからの推薦と受賞

環境省が実施する循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰は、先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体を表彰するもので、平成24年度では、企業20件、団体10件および個人4件の計34件が受賞となった（受賞者一覧は38～39ページに掲載）。

この「循環型社会形成推進功労環境大臣表彰」は、平成18年7月7日環廃対発第060707002号環境大臣通知による実施要領（別表参照）に基づき、3R活動推進に功労のあった個人及び団体、並びに3R活動優良企業を表彰するもので、被表彰者決定の手続きについては、「被表彰者（又は団体）は、都道府県又は3R活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。被表彰者の推薦については、（中略）毎年7月1日までに大臣あて行うものとする。」とされている。

平成24年度の3R活動推進フォーラムの推薦では、企業7件と個人1件の合計8件が受賞となった。

当フォーラムからの受賞者は以下の通り（カッコ内は推薦団体）。

○当フォーラム推薦による受賞（企業）

- ①株式会社日本アクシーズ
- ②株式会社アルフォ（城南島飼料化センター）
- ③東京ボードグループ「東京ボード工業株式会社」
- ④株式会社熊谷組
- ⑤株式会社ガイアート T・K福井合材工場
- ⑥サントリーホールディングス株式会社、協栄産業株式会社
- ⑦森永乳業株式会社神戸工場

○当フォーラム推薦による受賞（個人）

川添 克子

(2) 表彰式と受賞者の功績

平成24年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰は10月15日（月）に東京都内で開催された第7回3R推進全国大会で表彰式が行われた（写真）。



循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

I 目的

本制度は、総物質投入量・資源採取量・廃棄物等発生量・エネルギー消費量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、熱回収（エネルギーリカバリー）の適切な推進、廃棄物の収集運搬・処分事業、浄化槽の設置・保守点検・清掃及び製造等の事業、ねずみ・衛生害虫等の防除及び清掃等による生活環境の改善、廃棄物処理技術に関する研究等に顕著な功績があった個人、企業、団体又は地区を表彰し、その功績をたたえ、もって循環型社会の形成、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保、浄化槽によるし尿及び雑排水の適正な処理の推進その他生活環境の保全に資することを目的とする。

II 表彰の対象

次の1から6までのいずれかに該当する個人、企業、団体又は地区を表彰の対象とする。

ただし、春秋叙勲による勲章受章者、環境衛生事業功労者厚生労働大臣表彰、生活環境改善事業功労者等環境大臣表彰を受けた者（地区）を除く。

1 循環型社会形成推進功労者

先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体であって、次のいずれかに該当するもの。

(1) 3R活動推進功労（個人）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を展開し、これらの活動の推進に熱意と識見を有する者。

ただし、これらの活動を廃棄物の収集運搬・処分事業として行う者を除く。

(2) 3R活動推進功労（団体）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を目的とする団体であって、これらの活動を継続的かつ着実に推進してきたもの。

ただし、公益法人（社団法人、財団法人）、営利を目的とする団体及び宗教上の教義を広める活動を行う団体を除く。

(3) 3R活動優良企業（企業）

廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処分を実現した企業であって、次のいずれかに該当するもの。

イ その工場又は事業所等の事業に係る拠点において、当該事業活動に伴う廃棄物等の大幅な発生抑制又は循環的な利用の大幅な拡大を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ロ その製品等について、廃棄物等としての相当程度の発生抑制、循環的な利用の相当程度の拡大又は適正処分の飛躍的な向上を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ハ 廃棄物等の大幅な発生抑制、循環的な利用の大幅な拡大又は適正処分の飛躍的な向上のための技術、製品又はシステムを実用化し、かつその普及を図る企業。

（略）

III 被表彰者の決定

1 被表彰者決定の手続

被表彰者（又は団体）は、都道府県又は3R活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。

被表彰者の推薦については、IIに定める被表彰者の功績の区分ごとに別紙様式1から8により、別途定める推薦者数の範囲内で毎年7月1日まで（平成18年度に限り8月1日まで）に大臣あて行うものとする。

2 表彰の方法

表彰の方法は、被表彰者の功績の区分別に表彰状を授与して行うものとし、その時期及び場所は、別途、被表彰者に通知するものとする。

4. 3R推進地方大会後援等の協力

地方環境事務所が中心となって開催する3R推進地方大会に後援等の協力を行った。

(1)3R推進北海道大会 2012(北海道地方環境事務所)

- 開催日 平成24年10月6日(土) 10:00~17:00
- 会場 アリオ札幌1Fハーベストコート(札幌市東区北7条東9-2-20)
- 内容 3Rワークショップ、トークセッション、ECOクッキング、パネル展示、など



ワークショップ体験(左)とECOクッキング(右)

(2)3R推進宮城大会(東北地方環境事務所)

- 日程 平成24年10月19日(金)~21日(日)
- 会場 夢メッセみやぎ(宮城県仙台市宮城野区)
- 内容 ステージイベント、ブースイベント、ワークショップ、自治体・市民団体の取り組み紹介
(エコプロダクツ東北2012同時開催)



ステージイベント(左)とワークショップ(右)

(3)第7回3R推進関東大会(関東地方環境事務所)

- 日程 ①平成24年11月30日(金) 13:00~16:30
②平成24年12月1日(土) 10:00~15:30
- 会場 ①第1回富士市環境エネルギー展(主催:富士市)会場内(富士市柳島189-8 富士市産業交流展示場(ふじさんめッセ))
②第6回富士市環境フェア(主催:富士市)会場内(同上)

- 内容 ブースイベント（3R解説展示、クイズラリー、お買い物ゲーム、ワークショップコーナー）



クイズラリー(左)とワークショップコーナー(右)

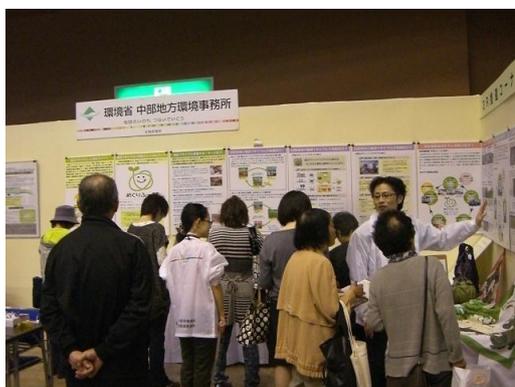
(4)3R推進中部地方大会(中部地方環境事務所)

1) とやま環境フェア

- 日程 平成24年10月20日(土)～21日(日)
- 会場 高岡テクノドーム(高岡市)
- 内容 食品リサイクルの取組紹介パネル展示・アンケート・クイズ・普及啓発グッズの配布

2) めぐりふードフェア

- 内容 食品リサイクル推進サポーター(食品リサイクルの愛称「めぐりふード」とそのシンボルマークを活用している事業者)の各店舗やイベント会場で食品残佐由来の農畜水産物のPR等
- 事業者 (株)戸田家・ひまわり農業協同組合豊川市農政企画協議会・ユニー(株)・(有)東海



とやま環境フェア出展ブース(左)とめぐりふードフェアでの収穫体験イベント

(5)3R推進近畿ブロック大会(近畿地方環境事務所)

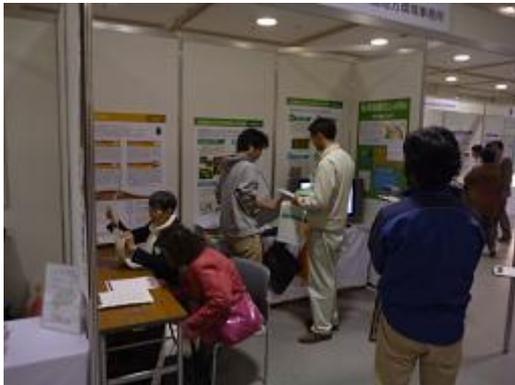
- 日程 平成24年10月6日(土)
- 会場 ホームズスタジアム神戸(神戸市)
日本女子サッカーリーグ・プレナスなでしこリーグ2012「INAC神戸レオネッサ vs ジェフユナイテッド市原・千葉レディース」試合会場
- 内容 リユースカップの、のぼり、エコステーション、電光掲示板、会場アナウンスを活用した啓発普及。スタジアム売店でのリユースカップ使用体験によるごみ発生抑制。



のぼり(左)、エコステーション(中)の活用。使用体験(右)によるごみ発生抑制。

(6) 3R推進中国四国大会(中国四国地方環境事務所)

- 日程 平成24年11月22日(木)～23日(金)
- 会場 広島県立広島産業会館西展示場(広島市)
- 内容
 - ・ブースでの3R・地球温暖化等のパネル展示、家電リサイクル法制度PRビデオ。
 - ・セミナー会場での環境セミナー「中山間地再生のカギ自伐林業」。
 - ・服のリユース、おしゃれな古着の交換会「xChange(エクスタチェンジ)」。



ブースでのパネル展示等(左)とおしゃれな古着交換会(右)

(7) 3R推進中国四国地方大会(中国四国地方環境事務所高松事務所)

- 日程 平成24年11月4日(日)
- 会場 サンポート高松多目的広場(高松市サンポート4)及びデックスガレリア(高松市サンポート2-1)
- 内容 3R推進に向けた講演会、紙すき等の親子体験学習、3Rクイズラリー、ウルトラマンショー、等々



紙すき体験学習(左)とクイズラリー(右)

5. 環境にやさしい買い物キャンペーン

環境省、経済産業省と3R活動推進フォーラムは10月1日～31日の期間、「平成24年度環境にやさしい買い物キャンペーン」を共同実施した。

キャンペーンの実施に当たっては、ポスターデザイン3種と統一デザインの電子データが、参加都道府県及び流通事業者に送付された。参加自治体は46都道府県、流通事業者は64社50,549店舗となった。

当フォーラムでは、同キャンペーンに併せて、2種類のポスターデータを作成し、希望者に配布した。

(1)趣旨

環境書の趣旨書を一部抜粋して以下に示す。

○環境省趣旨書（一部抜粋）

平成24年8月6日

環境省大臣官房・廃棄物リサイクル対策部

企画課循環型社会推進室

平成24年度『環境にやさしい買い物キャンペーン』実施方針

【目的】

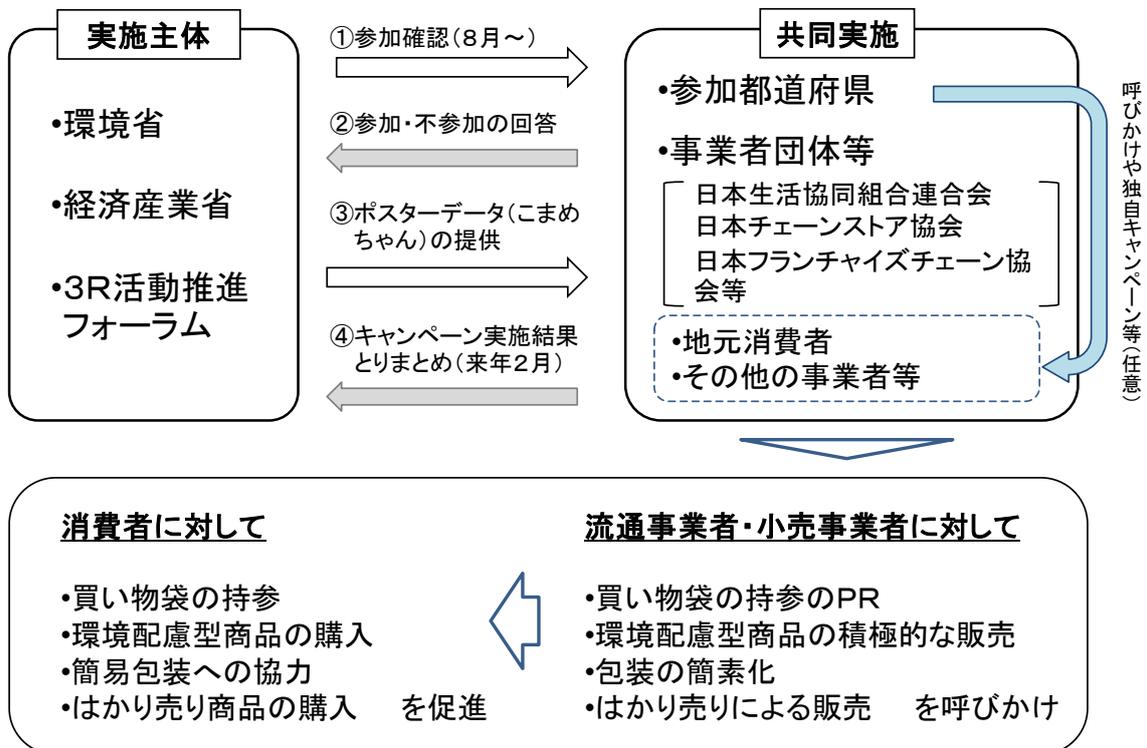
循環型社会形成推進基本法（平成12年法律第110号）に基づく第2次循環型社会形成推進基本計画（平成20年3月閣議決定。以下「循環基本計画」という。）において、「循環型社会の構築には国民一人一人に循環に配慮した持続可能なライフスタイルへの変革が重要」であり、それを実現するための国の取組として、地方公共団体等の各関係主体と連携を図りながら環境教育等を総合的に推進することとされております。

また、平成24年3月に閣議報告がなされた循環基本計画の進捗状況の第4回点検結果では、循環基本計画の取組指標に関する目標「循環型社会形成に向けた意識・行動の変化（※）」について、ごみ問題への意識については、「ごみ問題に関心がある」との回答率は81.2%と高いレベルにあるものの、「使い捨て製品を買わない」、「リサイクル製品を積極的に購入している」といった具体的行動については低い回答率のものも見られ、国民の高い意識を実際の行動につなげるため、消費の実態をより一層把握した上での行動につながる情報発信も引き続き重要とされたところです。

これらを踏まえ、消費者、事業者（主として流通業）、行政、消費者団体、NPO等の連携による地域活動を推進し、国民に環境に配慮した消費行動を促すことにより、地域レベルでの循環型社会の形成を図るため、本年度も引き続き「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施することとします。

(2)実施体制

【実施体制】



【実施期間】

平成 24 年 10 月 1 日～平成 24 年 10 月 31 日

【環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部の実施内容】

○各都道府県の独自性を尊重しつつ、全国的な統一感を保つため、経済産業省、3R活動推進フォーラムと連携して、以下を実施します。

- ・全国組織等との連絡調整（流通事業者への協力要請等）
- ・キャンペーン実施に向けた参加都道府県との連絡調整（実施内容等の調査、とりまとめ等）
- ・普及啓発資材の作成・配布（統一ポスターデザイン等の作成・配布（電子媒体））
- ・PR活動（記者公表、HPへの掲載、政府広報を通じてのPR等（9月～10月））
- ・キャンペーンの実施結果のとりまとめ（平成25年2月頃）

○各都道府県におかれましては、本キャンペーンにご賛同いただき、国が呼びかけを行う事業者団体に所属していない地元事業者への呼びかけや、国の取組との整合性を保ちつつ独自のキャンペーンの実施など、取組の促進をいただきたく、お願い申し上げます。

(3)PRキャラクター・統一デザインポスター

○PRキャラクター

日常生活におけるこまめな環境配慮行動の実践を呼びかける「コマメちゃん」が、10月のキャンペーン期間中、「レジ袋をやめてマイバックを活用しよう」など、6つの行動を呼びかけます。



○統一ポスターデザイン

環境省では、キャンペーンの全国的な統一感を保つための統一感をを保つための統一デザインを作成・配布し、「環境にやさしい買い物」の実践を全国に広く呼びかけます。



(4)参加団体

○参加自治体

都道府県	キャンペーン名称	担当部課名
北海道	3R推進キャンペーン	環境生活部環境局循環型社会推進課
青森	マイバッグキャンペーン	環境生活部 環境政策課
岩手	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部 資源循環推進課
宮城	3R推進活動	環境生活部 資源循環推進課
秋田	レジ袋削減・マイバッグ推進運動	生活環境部 温暖化対策課調整・省エネルギー班
山形	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境エネルギー部循環型社会推進課
福島	マイバッグ推進デーキャンペーン	生活環境部 環境共生課
茨城	平成24年度レジ袋削減運動	生活環境部 廃棄物対策課
栃木	マイ・バッグ・キャンペーン	環境森林部 地球温暖化対策課
群馬	ストップ温暖化！県民アクション	環境森林部 環境政策課□
埼玉	マイボトル利用促進運動	環境部 資源循環推進課一般廃棄物・リサイクル担当
千葉	環境にやさしい買い物キャンペーン～ちばエコスタイル～	環境生活部 資源循環推進課
東京	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境局廃棄物対策部 資源循環推進課
神奈川	レジ袋削減マイバッグキャンペーン	環境農政局環境保全部資源循環課
新潟	平成24年度3Rキャンペーン	県民生活・環境部 消費者行政課
富山	環境にやさしい買い物キャンペーン	生活環境文化部 県民生活課
石川	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部 地球温暖化対策室
福井	環境にやさしい買い物キャンペーン	安全環境部 循環社会推進課
山梨	環境にやさしい買い物キャンペーン	森林環境部 環境創造課
長野	平成24年度環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部 環境政策課
岐阜	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	環境生活部 廃棄物対策課
静岡	環境にやさしい買い物キャンペーン	くらし・環境部環境局廃棄物リサイクル課
愛知	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境部 環境活動推進課
滋賀	レジ袋無料配布中止に係るキャンペーン	琵琶湖環境部 循環社会推進課
京都	環境にやさしい買い物キャンペーン	文化環境部 循環型社会推進課
大阪	「環境にやさしい買い物キャンペーン」及び「NO!! レジ袋デー」	環境農林水産部 みどり・都市環境室 地球環境課
兵庫	「地球環境時代！新しいライフスタイル展開キャンペーン」	農政環境部 環境創造局 環境政策課
奈良	マイバッグキャンペーン	くらし創造部景観・環境局環境政策課
和歌山	平成24年度環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部 環境政策局環境生活総務課
鳥取	平成24年度環境にやさしい買い物キャンペーン	生活環境部 環境立県推進課グリーンニューディール推進室
島根	しまねレジ袋削減キャンペーン	環境生活部 環境政策課
岡山	環境にやさしい買い物キャンペーン(岡山県統一ノーレジ袋デー)	生活環境部 循環型社会推進課資源循環推進班
広島	「ひろしま環境の日」行動宣言(エコな買い物)の募集	環境県民局 環境部 環境政策課
山口	やまぐちいきいきエコフェア	環境生活部廃棄物・リサイクル対策課ゼロエミッション推進班
徳島	吉野川市マイバッグ持参キャンペーン	県民環境部 環境総局 環境首都課
香川	買い物でエコ！キャンペーン2012	総務部 県民活動・男女共同参画課
愛媛	環境にやさしい買い物キャンペーン	県民環境部環境局循環型社会推進課
高知	男も(女も)持つぞ！マイバッグキャンペーン2012	新エネルギー推進課
福岡	マイバッグキャンペーン	環境部 循環型社会推進課
佐賀	佐賀県マイバッグキャンペーン	くらし環境本部 地球温暖化対策課
長崎	ながさきマイバッグキャンペーン	環境部 未来環境推進課
熊本	熊本県マイバッグキャンペーン	環境生活部 環境局廃棄物対策課
大分	マイバッグを持ってお買い物に行こう♪キャンペーン	生活環境部 地球環境対策課
宮崎	みやざきマイバッグキャンペーン	環境森林部 循環社会推進課
鹿児島	鹿児島県マイバッグキャンペーン	環境林務部廃棄物・リサイクル対策課
沖縄	環境にやさしい買い物キャンペーン	環境生活部 環境整備課

○参加流通事業者等

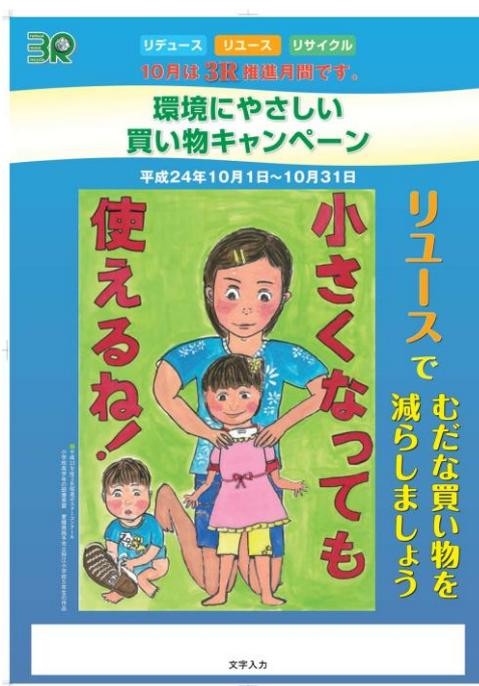
社名	店舗数	社名	店舗数	社名	店舗数
(株)ココストア	760	(株)佐賀玉屋	1	ユニー(株)	225
国分グローサースチェーン(株)	132	(株)佐世保玉屋	1	(株)イズミ	78
ミニストップ(株)	2,135	(株)そごう・西武	26	(株)いなげや	128
(株)九九プラス	1,188	(株)大丸松坂屋百貨店	18	(株)エスコ	64
(株)サークルKサンクス	6,235	(株)大和	3	(株)カスミ	145
(株)スリーエフ	640	(株)高崎高島屋	1	(株)京王ストア	31
(株)セイコーマート	1,138	(株)高島屋	14	(株)京急ストア	92
(株)セブンイレブンジャパン	14,311	(株)津松菱	1	(株)京成ストア	25
(株)デイリーヤマザキ	1,643	(株)東急百貨店	8	(株)阪食	62
(株)ファミリーマート	8,982	(株)東武百貨店	2	(株)ダイエー	206
(株)ポプラ	696	(株)ながの東急百貨店	1	(株)タイヨー	92
(株)ローソン	9,731	(株)中合	4	(株)とりせん	58
(株)小田急百貨店	3	(株)三越伊勢丹ホールディングス	26	(株)フジ	86
(株)一畑百貨店	1	(株)阪急百貨店	14	(株)ベイシア	124
(株)井上	3	(株)藤崎	1	(株)平和堂	135
(株)うすい百貨店	1	(株)プランタン銀座	1	(株)マツヤ	32
(株)岡山高島屋	1	(株)松山三越	1	(株)ヨークマート	71
(株)金沢名鉄丸越百貨店	1	(株)丸広百貨店	9	(株)ライフコーポレーション	230
(株)川徳	2	(株)山形屋	3	イオン(株)	346
(株)岐阜高島屋	1	(株)米子高島屋	1	(株)良品計画	300
(株)近鉄百貨店	12	(株)イトーヨーカ堂	177		
(株)京王百貨店	2	イズミヤ(株)	88	合計	64社
					50,549

※各自治体、流通事業者等の実施状況の詳細な内容については、3R活動推進フォーラムホームページ掲載の「平成24年度環境にやさしい買い物キャンペーン実施報告書」でご覧いただけます。

(<http://3r-forum.jp/img/p515a438a4602e.pdf>)

(5) 3R活動推進フォーラムの取り組み

3R活動推進フォーラムは、平成24年度環境にやさしい買い物キャンペーンの実施について、会員に対して協力を依頼するとともに、平成23年度3R促進ポスターコンクール入賞作品をデザインしたポスターデータを2種類独自に作成(写真)し、希望者に画像データを提供した。



6. 連携・協働事業

都道府県等地方自治体、事業者団体、NPO/NGO等と連携・協働して行うセミナーや研修会等を3自治体・5団体と13回開催した。このうち、環境省の3R推進企画運營業務として3自治体・3団体と6回実施した。

(1) 循環型社会形成推進セミナーの開催

1) 循環・3Rシンポジウム

- 共催先 NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット
- 後援 3R推進団体連絡会
公益財団法人廃棄物・3R研究財団
- テーマ 信頼と連携で共創する地域循環圏
- 開催日 平成24年7月19日(金) 13:00~16:30
- 会場 千代田区内幸町ホール
- 内容



森氏

- ◇開会挨拶 NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 崎田裕子氏
- ◇第一部 基調講演「災害廃棄物広域処理と住民対話」
財団法人原子力研究バックエンド推進センター 専務理事 森久起氏
- ◇第二部 話題提供「どう創る、地域循環圏の信頼の環」
 - ・「最近のリサイクル対策の動向について」
環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル対策室 室長 森下哲氏
 - ・「小型家電リサイクルとループづくり」
ハリタ金属株式会社代表取締役 張田真氏
 - ・「食品リサイクルと地域連携づくり」
バイオエナジー株式会社代表取締役 岸本悦也氏
- ◇第三部 総合討論「3R効果を本格的に発揮するには」
 - ・コーディネーター 崎田裕子氏 (NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット理事長)
 - ・パネラー
森下哲氏 (環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル対策室長)
森久起氏 (財団法人原子力研究バックエンド推進センター専務理事)
張田真氏 (ハリタ金属株式会社代表取締役)
岸本悦也氏 (バイオエナジー株式会社代表取締役)



総合討論

- 参加者 137名

2) 2012 山形県ビジネスセミナー

- 共催先 山形県
- 後援 公益財団法人廃棄物・3R研究財団
- テーマ ゼロエミッション推進セミナー
- 開催日 平成24年8月7日(火) 13:00~16:20

□会 場 山形県高度技術研究開発センター多目的ホール
(山形県山形市松栄二丁目 2 番 1 号)

□内 容

◇開会挨拶 山形県環境エネルギー部循環型社会推進課長

◇基調講演

「ゼロエミと循環型社会構築への布石 東北の復興課題と展望」

エコシス・コンサルティング株式会社 代表取締役 平田耕一氏

◇事例発表

・「パナソニックの環境への取組み」

パナソニック株式会社 環境本部環境渉外室 参事 小河晴樹氏

・「マテリアルリサイクル等リサイクルの最新事情」

株式会社佐野環境都市計画事務所 代表取締役 佐野敦彦氏

□参加者 95 名



平田氏

3) 平成 24 年度循環・3R 推進セミナー

□主 催 環境省・山形県・3R 活動推進フォーラム

□テーマ 3R の推進及び使用済み小型電子機器等リサイクル法

□開催日 平成 24 年 11 月 19 日 (月) 13:00~16:20

□会 場 山形県庁 1001 会議室

□内 容

◇開会挨拶

山形県環境エネルギー部循環型社会推進課 課長 中川芳則氏

◇基調講演

「使用済み小型電子機器等リサイクル法の概要」

環境省東北地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課

廃棄物対策調査官 縄野正衡氏

◇事例発表

「酒田市こでんアクション」

酒田市市民部環境衛生課 管理主査 村井真氏

「富山県における小型電子機器等リサイクルとループづくり」

ハリタ金属株式会社代表取締役 張田真氏

□参加者 65 名



縄野氏

4) 埼玉県循環・3R 推進セミナー

□主 催 環境省・埼玉県・3R 活動推進フォーラム

□テーマ 使用済小型家電機器等リサイクル制度の
導入に向けて

□開催日 平成 24 年 12 月 3 日 (月) 13:30~16:05

□会 場 さいたま共済会館 601 会議室

□内 容

◇開会挨拶 埼玉県環境部資源循環推進課 課長 森美秀氏



◇講演 1

「使用済小型電子機器リサイクル対策について」

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 崎田裕子氏



崎田氏

◇講演 2

「小型家電リサイクルとループづくり」

株式会社リーテムP I 事業推進室 室長 山崎隆久氏

◇講演 3

「使用済み小型家電からのレアメタルの回収」

豊田市環境部ごみ減量推進課 副主幹 近藤理史氏

□参加者 110名

5) 廃棄物・3Rのための電子契約セミナー

□共催先 公益財団法人廃棄物・3R研究財団

□テーマ 電子契約の有効性や社会的意義を考える

□開催日 平成24年12月13日(木) 13:00~16:05

□会場 千代田区立内幸町ホール(東京都千代田区内幸町1-5-1)

□内容

◇開会挨拶

「廃棄物・3Rに係る電子契約の情報資料集」について

公益財団法人廃棄物・3R研究財団 専務理事 八木美雄氏

◇電子契約について

・「廃棄物・3Rのための電子契約のあり方」

株式会社佐野都市環境計画事務所 代表取締役 佐野敦彦氏

・「電子契約に係る事業の進め方」

株式会社佐野都市環境計画事務所 チーフプロデューサー 木川仁氏

・「電子契約の考え方」

株式会社セコムトラストシステムズ 営業開発本部 大友元裕氏

◇電子契約のトップランナーの事例紹介

・「新日鐵住金の取り組み」

新日鐵住金株式会社 君津製鐵所 安全環境防災部 渡辺勇吉氏

・「日本マクドナルドの取り組み」

日本マクドナルド株式会社 ナショナルオペレーション本部 深井勝彦氏

□参加者 約150名



佐野氏

6) 平成24年度循環・3Rシンポジウム

□主催 環境省・NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット・3R活動推進フォーラム

□テーマ 信頼と連携で共創する地域循環圏

□開催日 平成24年12月18日(火) 13:00~16:40

□会場 名古屋栄ガスビル410会議室

□内容

◇開会挨拶 NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネット
理事長 崎田裕子氏

◇基調講演 「循環型社会形成に向けた最近の状況～小型家電リサイクル法を中心として～」
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課
循環型社会推進室長兼リサイクル推進室長 永島徹也氏



永島氏

◇話題提供

- ①「小型家電リサイクルとループづくり」
中部リサイクル運動市民の会 浅井直樹氏
- ②「食品リサイクルは命をつなぐ環～地域循環型農業を目指して～」
株式会社ユニー業務本部環境社会貢献部長 百瀬則子氏
- ③「ごみの減量に向けて」
熱海市市民福祉部市民生活課
環境企画室長 山田賢二氏

◇シンポジウム・参加者交流

コーディネーター：崎田裕子氏

パネリスト：

永島徹也氏、浅井直樹氏、百瀬則子氏、
山田賢二氏（熱海市）



□参加者 60名

7) 京都府3R推進セミナー

□主催 環境省・京都府・3R活動推進フォーラム

□テーマ 循環型社会に向けて、廃棄物の少ない生活を考える

□開催日 平成25年2月5日（火）13：30～16：35

□会場 大学コンソーシアム京都 キャンパスプラザ第4講義室

□内容

◇開会挨拶 京都府文化環境部循環型社会推進課 課長 山田一成

◇基調講演

「市民とのパーとナーシップ～信頼で共創する地域循環圏～」

NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 崎田裕子氏

◇事例発表

- ①「分別収集とゼロ・ウェイスト宣言」

NPO 法人ゼロ・ウェイストアカデミー 藤井園苗氏

- ②「さいたま市のごみ減量化・3Rの施策」

さいたま市環境局資源循環推進部資源循環政策課 課長補佐 島村和久氏

- ③「事業者による容器包装の3R推進について」

スチール缶リサイクル協会専務理事 酒巻弘三氏

- ④「アジア3R推進市民ネットワーク」

アジア3R推進市民ネットワーク事務局長 鬼沢良子氏

◇パネルディスカッション

・コーディネーター 崎田裕子氏



崎田氏

- ・パネリスト 藤井園苗氏、島村和久氏、酒巻弘三氏、鬼沢良子氏

- ・オブザーバー

山田一成（京都府環境・エネルギー局
循環型社会推進課長）



□参加者 52名

8) 3R・循環推進セミナー

□共催先 環境省・3R推進団体連絡会

□テーマ 3R、資源の循環利用、ごみ減量化を考える

□開催日 平成25年2月19日（火）13:00～16:50

□会場 新梅田研修センターLホール（大阪市福島区福島6-22-20）

□内容

◇開会挨拶 3R推進団体連絡会幹事長 酒巻弘三氏

◇第1部 基調講演「3R活動推進へのソフト事業の展開」

京都大学名誉教授・環境漫画家 高月紘氏

◇第2部 話題提供

・環境省大臣官房廃棄物リサイクル対策部リサイクル推進室係長 水信崇氏

・京都市環境政策局循環型社会推進部企画課担当課長 堀寛明氏

・熱海市市民福祉部市民生活課環境企画室長 山田賢二氏

・3R推進団体連絡会幹事（PETボトルリサイクル推進協議会専務理事）近藤方人氏

・NPO法人ごみゼロネット大阪 北井弘氏

◇第3部 シンポジウム・参加者交流

・コーディネーター 高月紘氏

・パネリスト

水信崇氏、堀寛明氏、山田賢二氏、近藤方人氏、

北井弘氏

□参加者数 65名



高月氏



9) 多様な回収システム検討セミナー

□共催先 スチール缶リサイクル協会

□後援 公益財団法人廃棄物・3R研究財団

□テーマ これからのリサイクルはどのような方向へ

□開催日・会場

第1回 平成24年8月2日（木）13:00～17:00

名古屋駅ABCビル 第4会議室（名古屋市中村区椿町16-23）

第2回 平成25年2月18日（月）13:00～17:00

堺市産業振興センター セミナー室2（堺市北区長曾根町183-5）

第3回 平成25年2月25日（月）13:00～17:00

TKP ガーデンシティ熊本 カンファレンスルーム1（熊本市中央区下通1-7-18 ホテルサンルート熊本）

□内 容

◇第1部

- ・主催者挨拶 スチール缶リサイクル協会 専務理事 酒巻弘三氏
- ・「循環型社会とリサイクルの最新動向」
公益財団法人廃棄物・3R研究財団 藤波博氏
- ・解説 テキスト「集団回収マニュアル」～協働型集団回収とは？その可能性～
スチール缶リサイクル協会 細田佳嗣氏
- ・中間報告 拠点・店頭回収の現状
株式会社ダイナックス都市環境研究所 南明紀子

◇第2部

- ・自治体からの現状報告

- 第1回 稲沢市経済環境部資源対策課
西尾市環境部ごみ減量課
可見市市民部環境課
- 第2回 堺市環境局環境事業部資源循環推進課
守口市クリーンセンター減量総務課
- 第3回 熊本市環境局ごみ減量推進課
鹿児島市環境局清掃部リサイクル推進室

- ・質疑応答・意見交換

(コーディネーター 株式会社ダイナックス都市環境研究所 代表取締役 山本耕平氏)

□参加者数 毎回 約 20 名



第1回セミナー

(2)一般廃棄物実務研修セミナー

- 共催先 環境省・全国都市清掃会議関東地区協議会
- テーマ 今後の一般廃棄物の動向を考える
- 開催日 平成25年1月28日(月) 13:30～16:35
- 会場 ホテルブリランテ武蔵野 2F「サファイア」
(さいたま市中央区新都心 2-2)

□内 容

◇開会挨拶 全国都市清掃会議関東地区協議会幹事長・さいたま市環境局長 矢作浩良氏

◇講演

- ・「使用済小型家電リサイクル法について」
環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長補佐 眼目佳秀氏
- ・「今後のリサイクルを考える」
株式会社佐野環境都市計画事務所
代表取締役所長 佐野敦彦氏
- ・「生ごみリサイクルと地域連携づくり」
バイオエナジー株式会社代表取締役 岸本悦也氏
- ・「最終処分場の維持管理について」
独立行政法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター
廃棄物適正処理処分研究室長 山田正人氏



眼目氏

□参加者数 102名

(3)年次報告会

□共催先 (公財) 廃棄物・3R研究財団

□開催日 平成24年9月11日(火) 13:30~16:35

□会場 江戸東京博物館 会議室
(東京都墨田区横網1-4-1)

□内容

◇開会

(公財) 廃棄物・3R研究財団 理事長 田中勝氏

◇講演

①「廃棄物行政・リサイクル行政の動向」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課 課長 山本昌宏氏

②「廃棄物を資源に～ごみゼロ社会への取り組み～」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 理事長 田中勝氏

③「国立環境研究所の東日本大震災への取り組み」

～資源循環・廃棄物研究センターの福島における取り組みを中心に～

(独) 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 研究調整主幹 高田光康

◇調査研究概要報告

①「最終処分場及び粗大ごみ処理施設、リサイクル・資源化施設等の長寿命化」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 専務理事 八木美雄

②「廃棄物系バイオマスの利用推進」

(公財) 廃棄物・3R研究財団 主任研究員 河村栄作

□参加者 113名



(4)後援・協賛等の協力

フォーラム会員団体などの関連事業に後援・協賛する等連携・協力を積極的に努めた。
(詳細は13~14ページに掲載)



5月27日(日)に金沢市健民海浜公園で行われた散乱防止美化キャンペーン(スチール缶リサイクル協会主催)に参加、終了後、金沢駅前では美化啓発活動を行った。

7. 広報・普及事業

展示会への出展、インターネットを活用した情報発信、出版物の発行、新聞・雑誌への情報提供及び広告掲載等を行った。(詳細は14～15ページに掲載)

(1) 展示会への出展



エコライフ・フェア2012

- 開催日時 平成24年6月2日(土)、3日(日)
- 開催場所 都立代々木公園 ケヤキ並木(NHKホール前) およびイベント広場
- 出展内容
 - ①パネル展示
 - ②3Rクイズにチャレンジ
 - ③資料配布



とやま環境フェア2012

- 開催日時 平成24年10月20日(土)～21日(日)
- 開催場所 富山県産業創造センター(高岡テクノドーム、高岡市内)
- 出展内容
 - ①パネル展示
 - ②3Rクイズにチャレンジ
 - ③資料配布

(2) 出版物の発行

「3R活動先進事例集2012」「平成24年度環境にやさしい買い物キャンペーン実施報告書」「財団・3Rだより」等を発刊した。(詳細は15ページに掲載。3R活動推進フォーラムホームページで全ページ見られます。)



(3) インターネットを活用した情報発信

- ① ホームページで各種お知らせ、各種刊行物の案内・閲覧等の情報を発信
- ② メルマガ「3R・廃棄物ニュース」を毎月3回配信
- ③ 会員向けに事務局の業務状況を「事務局通信」として毎月メールで配信

(4) カレンダー・ポスター等の作成

平成24年度3R促進ポスターコンクール入賞作品を使用した「2013年3Rカレンダー」や「環境にやさしい買い物キャンペーン」用ポスターデータ(69ページ前出)等の3Rグッズを作成、希望者に配布した。

(4) Rマーク(再生紙マーク)の普及促進

「Rマーク」は、古紙パルプがどのくらい配合されているのかが一目で判るようにしたもので、平成7年6月、「3R活動推進フォーラム」の前身である「ごみ減量化推進国民会議」によって、再生紙の利用促進・普及啓発をしていくためのシンボルマークとして定められた。

申請や届出は不要だが、表示に際しては、正しい数字を表示するよう、ホームページや展示会などでパネル(写真右)展示などを通して、広報に努めている。



R (再生紙使用) マーク

1. 「Rマーク」とは

「Rマーク」は、平成7年6月、「3R活動推進フォーラム」の前身である「ごみ減量化推進国民会議」によって、再生紙の利用促進・普及啓発をしていくためのシンボルマークとして定められました。

2. 「Rマーク」の表示に際しては

「Rマーク」は、古紙パルプがどのくらい配合されているのかが一目で判るようにしたもので、申請や届出は不要で、誰でも自由に無料で使用できますが、表示に際しては、以下に十分注意してください。

- 古紙パルプ配合率は製紙メーカーや印刷会社とご確認の上、正しい数字を表示すること。
- 再生紙を使用した印刷物などに刷り込んで表示し、コーティング加工した紙や、他の素材と複合をした紙(段ボール等)に対しては使用しないこと。
- 表紙と中面で古紙パルプ配合率の違う紙を使用している場合は、両方の古紙パルプ配合率を表示すること。
- 古紙パルプ配合率を示した数値・文言、説明とあわせて表示すること。
- マークの形は崩さないこと。ただし、文字の大きさ、色は自由です。

3. 「Rマーク」の表示例

「Rマーク」は、「Rと古紙パルプ配合率を示す数値」と「古紙パルプ配合率〇〇%再生紙を使用」を組み合わせることで表示してください。

なお、平成20年1月に環境省から公表された「環境表示ガイドライン」では、消費者を混乱させないため、Rマークの近辺やウェブサイトなどに、下記表示例のように利用方法について説明文を加えて表示することが望ましいとされています。

この製品は、古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。

活動推進フォーラム
ReDuce | ReUse | ReCycle

〒130-0026
東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F
財団法人 廃棄物研究財団内
TEL 03-5638-7162 FAX 03-5638-7164
URL <http://3r-forum.jp/>

8. 会員サービスの充実

- (1) 会員の連携・協働事業、情報の発信・共有化、会員割引料金による資料提供、3Rグッズ等の配布、等を実施した。
- (2) 2012年11月発刊の財団だより「会員特集号」では、「自治体会員における廃棄物・3Rの取り組み」、民間団体会員の広告（無料）を掲載した。
（詳細は16ページに掲載）
- (3) 事務局の業務状況、お知らせなどを「事務局通信」として毎月メールで配信した。

9. 調査研究の実施

3R・廃棄物の電子契約のあり方研究への協力

廃棄物処理・リサイクル等の委託契約を電子化することの有効性や課題について検証する(財)廃棄物研究財団(現・公益財団法人廃棄物・3R研究財団)の「3R・廃棄物の電子契約のあり方研究」に協力した。

編集後記

○3R活動推進フォーラムは設立されて8年目に入りました。去る4月26日に開かれた総会では、事業報告、決算報告をご覧いただき、異口同音に「少ない予算で数多くの事業を実施していることに驚かされた」とのお言葉をいただきました。これも事務局を置いている財団や会員の皆様のご支援の賜物と感謝しています。一方で、フォーラムの活動がまだまだ世間に知られていないとのご指摘もありました。より多くの人たちに知ってもらえるよう一層の努力をして参りますので、関係の皆様のご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

○毎年、3R推進月間の目玉行事として実施している3R推進全国大会は、今年、栃木県及び宇都宮市の協力により、10月17日（木）に栃木県総合文化センターで開催されることになりました。従来、3R推進全国大会は都道府県や政令市の皆様の、経済的にも人的にも多大なご協力により開催され参りましたが、今回からは既存のイベントと併催するなど、負担をなるべくおかけしない形で開催することとなりました。この新しい開催方式を成功させて、今後の3R推進全国大会の開催を軌道に乗せたいと考えています。

○3R活動推進フォーラムの会員は、環境省からも呼びかけていただいて、自治体会員が徐々に増えています。現在、都道府県会員は40となり、政令指定都市も2市のほか4市が団体のメンバーとして加入しています。また、東京都からは特別区に呼びかけていただき、現在3区が入会し、自治体会員は一般市も併せて50会員となりました。一方、民間団体においては、厳しい経済環境にも関わらず、新たに2団体が加入され、67会員となりました。これからも連携事業を強化するなど事業活動を充実させ、お応えして参りたいと考えています。

3R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会をめざして～

2013 年次報告書

発行：3R活動推進フォーラム

発行年月：平成25年5月

所在地：〒130-0026

東京都墨田区両国 3-25-5 JEI 両国ビル 8F

(公財) 廃棄物・3R研究財団 内

TEL 03-5638-7162 FAX 03-5638-7164 URL : <http://3r-forum.jp/>

E-mail : info@3r-forum.jp

3R活動推進フォーラム

～ごみゼロ・循環型社会めざして～

事務局案内図

Forum to promote 3Rs activities (3Rs Promotion Forum)

〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5

J E I 両国ビル 8F(公財)廃棄物・3R研究財団内

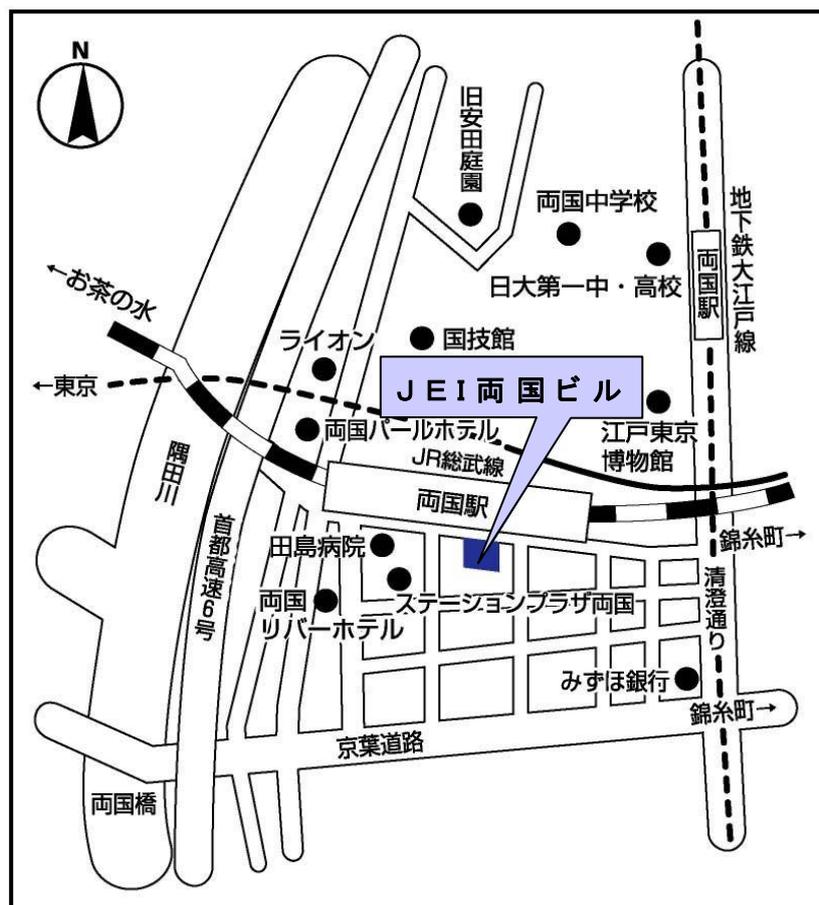
Secretariat of the 3Rs Promotion Forum

3-25-5 Ryougoku, Sumida-ku, Tokyo, 130-0026, Japan

8th floor, J E I Ryougoku Building

TEL 03-5638-7162 FAX 03-5638-7164

URL <http://3r-forum.jp/>



JR 両国駅東口改札前 徒歩1分

都営大江戸線 両国駅 A4 出口 徒歩5分

“Mottainai”は愛言葉



リデュース
ゴミを出さない

リユース
くりかえし使う

リサイクル
再び資源にする

平成 24 年度3R促進ポスターコンクール入賞作品